

Hokkaido University News

# 北大時報

平成26年

# 10

No. 727 October 2014

## 北海道大学ホームカミングデー2014の開催

お知らせ

・総合博物館の展示公開を一時休止





ホームカミングデー2014



## 1 先進的な授業改革の取組

### ■ 全学ニュース

- 2 北海道大学ホームカミングデー2014の開催
- 17 平成26年度スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA（トップ型）に採択
- 18 インフォメーションセンター「エルムの森」利用者100万人達成！
- 19 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会連携大学地域巡回フォーラム「北海道ブロック大会」開催
- 19 独立行政法人日本学術振興会 平成25年度特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から6名
- 20 北大フロンティア基金
- 22 平成26年度北海道大学インターンシップを実施
- 23 総長室事業推進経費による「教育プログラムの開発研究」の成果発表ワークショップを開催
- 24 未来創薬・医療イノベーション拠点形成事業 第12回国際シンポジウム～Perspectives of Molecular Imaging and Target Therapy/これまでの成果と今後の展望～を開催
- 25 第2回COI-Tプログラム「食と健康の達人」視点 参画機関会議を開催
- 26 「北海道地域3大学2公設試 新技術説明会」を開催
- 27 北海道大学総合技術研究会を開催
- 28 平成26年度国立大学法人等情報化発表会を開催
- 29 イノベーション・ジャパン2014に出展
- 30 利益相反セミナーを開催
- 30 「生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭」を挙げる
- 31 リサーチ・アドミニストレーター（URA）の全国大会を開催～500名を超すURAが議論
- 32 札幌国際芸術祭2014連携事業「北大アーティストカフェ」を実施
- 33 研究者のためのスキルアップセミナー②「伝わるデザインの法則：外部資金申請のためのレイアウトとデザイン」を開催
- 33 函館・札幌の若手研究者を中心とした情報交換及び学際・地域間共同研究マッチング「函館研究交流会」を開催
- 34 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第23回「赤い糸会&緑の会」を開催
- 35 北キャンパスで合同消防訓練を実施

### ■ 部局ニュース

- 36 法学研究科が台湾法官学院（台湾）との部局間交流協定を締結
- 36 農学研究院・農学院・農学部、北方生物圏フィールド科学センターが札幌市円山動物園と包括連携協定を締結
- 37 経済学研究科がエズラ・F・ヴォーゲル氏を招き「北海道大学特別講演会」を開催
- 37 理学研究院附属地震火山研究センターで第8回北太平洋沈み込み帯国際ワークショップを開催
- 38 国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院で今年度2回目の「TLLPスタディ・ウィーク（9月セッション）」を開催



農学研究院 農学院 農学部 北方生物圏フィールド科学センター 札幌市円山動物園と包括連携協定



理学研究院附属地震火山研究センター 第8回北太平洋沈み込み帯国際ワークショップ



水産科学院 第4回国際サマーコース



北海道大学病院 災害医療訓練、CBRNE災害対策訓練

- 39 水産科学院が第4回国際サマーコースを開催
- 40 平成26年度水産学部公開講座「最近の海の環境変化と水産資源」が終了
- 41 平成26年度地球環境科学研究院公開講座「IPCC第5次評価報告書を読み解く」が終了
- 42 医学部・歯学部合同慰霊式を挙げる
- 42 動物慰霊式を挙げる
- 44 北方生物圏フィールド科学センターで「第1回森林フィールド講座・和歌山編 熊野の森の愉しみ方」を開催
- 45 平成26年度文学研究科FD研修会を開催
- 46 生命科学院でFD研修～学生指導と教育環境「変わる就活期間、留学生支援」～を開催
- 47 総合博物館で企画展「三岸好太郎と札幌の山－三岸好太郎作《北海道風景（大通公園）》（筑波大学所蔵）をめぐって」と関連ワークショップを開催
- 48 工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
- 49 北海道大学病院で災害医療訓練、CBRNE災害対策訓練を実施
- 50 附属図書館でインターンシップ・図書館実習を実施
- 50 北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受け入れ
- 51 ピア・サポートと北図書館による1年生サポート企画「少年よ、学部を選べ！2014」を開催

### ■ お知らせ

- 52 総合博物館の展示公開を一時休止

### ■ 博士学位記授与 52

### ■ レクリエーション

- 59 教職員サッカークラブが平成26年度 第44回札幌社会人サッカーリーグに出場
- 60 平成26年度学内教職員フットサル大会の開催
- 61 教職員卓球大会の開催 - 団体戦・ペア・個人戦 -

### ■ 諸会議の開催状況 62

### ■ 学内規程 63

### ■ 研修

- 64 平成26年度国立大学法人北海道大学会計実務研修

### ■ 表敬訪問 64

### ■ 人事 65

- 68 新任教授紹介



## 先進的な授業改革の取組

理事・副学長 にっ た たかひこ 新田 孝彦



### 全学的な教育制度改革

本学ではこれまで、授業科目群ごとに統一した成績評価基準の作成と成績分布の公表、GPA (Grade Point Average) 制度と履修登録単位数の上限設定、偏った成績分布を示した授業に関する是正策、成績評価に対する異議申し立て制度など、全国の大学に先駆けた教育制度改革を数多く実施してきました。今年度からは、すべての教育課程においてカリキュラムポリシーを作成し、それに基づいた授業科目の階層化（ナンバリング）を実現することで、カリキュラムを可視化し、学生の計画的な学修に役立てるとともに、カリキュラムを不断に見直すPDCAサイクルを回していきます。さらに、学生の国際的流動性を高める方策として、来年度の学部入学者から国際的な標準に合わせてグレードを細分化した新GPA制度を導入し、平成28年度からはそれぞれの教育課程の特質に応じた4学期制も実施することになっています。

### 制度改革から授業改革へ

しかし、こうした教育制度改革も、個々の授業の質の向上に結びつかなければほとんど意味がありません。現在、授業改革に関する世界の潮流は、「アクティブ・ラーニング」や「反転授業」すなわち「ティーチングからラーニングへ」の方向に進んでいます。これは、大学卒業者に求められる能力や資質が変化し、身につけた知識を利用しつつ、様々な課題を解決するために応用し、あるいは自ら知識を獲得する習慣と技法を身につけることがより重視されるようになったことに対応しています。

本学では、こうした流れに即応し、個々の授業の方略を転換させる一つの方策として、本年度、オープンエデュケーションセンター（OEC）を設置しました。これまで、オープンコースウェア（OCW）において授業や公開講座の映像資料などを公開し、非常に多くの利用者を獲得してきましたが、授業に活用されることはまれでした。

OECでは、「現在進行形のオープン・エデュケーション・リソース」をモットーに、実際に授業に使うための教材開発を支援します。オープン教材を利用して学生が予習をし、教室では教員と学生あるいは学生同士が議論し、問題解決に挑むという、学生主体のラーニングへと転換させるのが狙いです。

将来的には、ここで開発された教材はMOOC（大規模オープン・オンライン講座）として発信し、広く世界から優秀な学生を集めることにも役立つと期待されます。すでに本学では、世界各国でオープンコースウェアを公開する大学が加盟するオープン・エデュケーション・コンソーシアムからの依頼により、工学研究院の先生方が道内教養教育連携実施事業のために作成した教材を、マサチューセッツ工科大学とハーバード大学が設立したedXという国際的なMOOCコンソーシアム上で発信することが決まっています。

### 道内教養教育連携実施事業

ICTを活用した授業改革の影響は、本学だけにとどまりません。昨年度、道内の国立大学が連携して教養教育を実施する北海道地区国立大学連携教育機構が設立され、2月に締結された単位互換協定に基づいて、この第2学期から、各大学から提供された22科目が他大学に配信されます。遠隔授業システムを利用した授業は、対面授業とは違ったやり方が求められます。担当される先生方には大変なご苦勞をおかけしますが、来年度以降は提供数を100科目以上に拡大する予定です。より多くの先生方が参加し、授業改革に積極的に取り組んでくださることを期待しています。

教育改革室では、学生が生き生きと目を輝かせて参加する授業を全学的に作り上げることを目指して、今後も様々な努力を重ねていきます。

## ■全学ニュース

# 北海道大学ホームカミングデー2014の開催

### —第3回ホームカミングデーを終えて—

広報室総長補佐 にしぐち のりひこ 西口 規彦

9月27日（土）、「Be ambitious again!」をモットーに、「北海道大学ホームカミングデー2014」を開催しました。秋晴れの中、多くの同窓生が札幌キャンパスに集い、盛況の内に幕を閉じました。

同窓生を迎えるに当たり、全学行事と部局・同窓会が主催する行事を企画しました。全学行事としては、クラーク会館講堂を会場に「歓迎式典・記念講演会」を開催しました。講演会に続き、歓迎のステージとして来年100周年を迎える北海道大学合唱団・合唱団OB会の演奏が披露され、様々な世代の同窓生が若い世代の学生達と一堂に会し、同窓生同士のさらなる繋がりを期待できる会となりました。

全学行事の終了後には、4月に発足した「ほっかいどう同窓会」が提供する特別ランチに舌鼓を打ち、学生時代を

懐かしみながら各学部等へ足を運ぶ同窓生が多く見られました。

多くの部局や同窓会が26日（金）から27日（土）にかけて、ホームカミングデー開催に合わせて創立記念祝賀行事、講演会や懇親会、同窓会総会などを開催し、まさに大学全体の同窓会となりました。各部局ではそれぞれ、現役学生と同窓生、旧教職員との交流を図る企画を実施したり、在学生の家族が参加する企画を行ったりと、様々な形の交流の場が広がりました。

次回、第4回のホームカミングデーは来年、平成27年9月26日（土）に予定しています。来年も各部局・同窓会等のご協力を得て、同窓生の皆様に喜んでいただけるイベントにしていきたいと考えています。再び多くの同窓生が集うことを願っております。



当日の様子

総務企画部広報課

## 歓迎式典・記念講演会

### 歓迎式典・記念講演会

9月27日(土) 10:00~11:40 クラーク会館講堂 参加者227名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を行いました。

会場となったクラーク会館講堂が多くの同窓生や関係者で埋まるなか、北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」「永遠の幸」の演奏で式典は幕を開けました。

司会は本学経済学部卒業生である北海道放送株式会社(HBC)の船越ゆかりさんが務め、最初に、山口佳三総長が「進化する北海道大学」と題して本学の近況を報告し、「同窓生の皆様には本学の強力な応援団になっていただきたい」とのメッセージを伝えました。次に、石山 喬北海道大学連合同窓会会長が歓迎の挨拶として、「新渡戸カレッジ」を例にあげながら、連合同窓会の役割や意義について話されました。

続いて、キャスターとしてもご活躍され、北海道大学大学院農学研究院客員教授、並びに慶應義塾大学大学院シ

ステムデザイン・マネジメント研究科特任教授である林美香子氏が「農業・農村で幸せになろうよ」と題して講演を行い、「農都共生」(農村と都市の共生)の大切さを伝えました。

そして、歓迎のステージでは、来年100周年を迎える北海道大学合唱団・合唱団OB会が札幌農学校校歌「永遠の幸」をはじめ4曲を披露し、会場に重厚な歌声を響かせてくださいました。

ステージの締めくくりは、「都ぞ弥生」の斉唱です。斉唱時には合唱団団長の呼びかけで役員等もステージに上がり、客席の方々は席を立ち隣の方と肩を組み、会場が一体となりフィナーレを迎えました。同窓生の皆様には本学の“今”を体感していただけたことと思います。

また、式典開始前には、総合博物館の藤田良治助教が制作した映像を会場内スクリーンで上映し、本学の色彩豊かなキャンパスを紹介しました。



交響楽団による演奏



司会を務めた船越さん



本学の近況を報告する山口総長



歓迎の挨拶を述べる石山会長



講演する林氏



合唱団・合唱団OB会による歓迎のステージ



「都ぞ弥生」斉唱で参加者が一体となった会場



## 部局・同窓会主催行事

文学研究科・文学部，教育学院・教育学研究院・教育学部，法学研究科・法学部，経済学研究科・経済学部

## 公開講演会・同窓会総会・同窓会合同懇親会

9月27日（土）14：00～19：00 人文社会科学教育研究棟（W棟）103室，北大生協中央食堂等 参加者177名

文学部・教育学部・法学部・経済学部の4部局による共同開催として、「憲法改正問題の背景－過去と現在からのアプローチ」と題し、公開講演会を開催しました。

憲法改正問題は、人文社会系の様々な専門分野からの分析が可能で、かつ、必要な問題であり賛否様々な立場はありますが、「憲法改正問題が、なぜ今、この日本で問題化しているか？」を明らかにすることが、どのような立場に立つにしても議論の出発点でなければならないと思ひ、多くの

方々も関心を持っていることから開催しました。

公開講演会は、山口佳三総長の挨拶に続き、日本近代史を専門とする文学研究科の川口暁弘准教授による「近代日本の護憲・改憲・その間」と題する講演、次いで、政治学を専門とする法政大学法学部の山口二郎教授による「戦後政治史の中の安倍政治：戦後レジームからの脱却が意味すること」の講演が行われました。

本講演会は、歴史学と政治学という複数の視点から論じる企画であり、ま

た、市民の関心も高いことから、同窓生に加えて一般市民など177名が訪れ、会場は満席となりました。講演後の質疑応答においても、予定の時間を超過する活発な意見交換が行われ、充実した講演会となりました。

公開講演会終了後は、各学部同窓会による総会、次いで、文学部・教育学部・法学部・経済学部同窓会による合同懇親会が行われ、こちらも多数の方が出席され、和やかな歓談のひと時を過ごし、学部を超えての交流を深め、盛会のうちに終了しました。



講演する川口先生



講演する山口先生



満席となった会場

医学研究科・医学部

## 北海道大学医学部フラテ祭2014

9月27日(土) 14:00~19:00 医学部学友会館フラテ 参加者111名

医学部では、毎年開催している「北海道大学医学部フラテ祭」をホームカミングデー開催行事とし、「北海道大学医学部フラテ祭2014」を開催しました。

第1部の施設・キャンパスツアーでは、現役助教がツアーコンダクターとなり、参加者を各所へ案内しました。参加者は、施設ツアーでは実験室に置かれた色々な機器に興味深そうに眺めており、また、キャンパスツアーではバスで本学の名所を巡り、その解説を聞きながら見学を楽しまれました。

引き続き行われた第2部の講演会では、笠原正典医学部長、松浦 亨北海道大学病院長補佐、及び山梨大学大学院環境遺伝医学講座の久保田健夫教授が講演を行い、参加者は熱心に聞き入っていました。今年は学生父母の参加

が全体の約7割を占めており、講演する先生は参加者が理解しやすいように務め、とても好評でした。

フラテ祭を締めくくる第3部の交歓会では、初めに北海道大学合唱団の「都ぞ弥生」「学友会歌」の合唱が披露され、その後フラテホールから大研修室に場所を移し、祝宴を開催しました。祝宴の半ばでは、2年生と5年生の在学から医学部生の学生生活についての発表がありました。簡潔でわかりやすい説明は大変好評で、参加者はとても興味深そうに耳を傾けていました。学生(フラテ祭スタッフ)・学生父母・同窓生・教員が一堂に会し歓談できる機会は、フラテ祭以外にはなく、年に一度の素敵なお時間を過ごすことができました。



施設ツアーでの説明の様子



講演会の様子

## 保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会・内覧会）

9月27日（土）13：30～17：00 保健科学研究院6階大会議室 参加者52名

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科では、保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会）と題し、保健科学研究院の各分野から、最近の教育研究の諸活動などについて近況報告を行い、また、卒業生を講師としてお迎えし、これまでの歩み、現在の活動状況などをお話していただきました。

伊達広行研究院長の開催の挨拶に始まり、分野紹介では、最近の教育研究について紹介しました。講演会では、太田 誠氏（専門学校日本福祉リハビリテーション学院学院長、公益社団法人北海道理学療法士会会長）に、「初

めの道産“Physical Therapist”に求められたもの」と題し、道内養成校初の理学療法士が送り出されてから30年を経て、1期生に求められたものとは何だったのかについて、北海道理学療法士会の歴史を交えてお話していただきました。次に、佐藤圭永氏（勤医協中央病院 地域連携センター連携広報課課長、元 札幌臨床検査技師会会長）に、「素晴らしき仲間たち～楽しく働くために～」と題し、悩んだ時、困った時、そして挑戦しようと思った時に、たくさんの仲間が助けられ、学ぶ、働く、そして挑戦するのは楽しいということをお話

していただきました。

講演会終了後、完成した新棟の内覧会を行い、各階で研究室や実験室を見学するとともに、教員や大学院生が本研究院の研究の一端を紹介し、予定時間を超過し好評のうち終了しました。



開会の挨拶をする伊達研究院長



分野紹介の様子



太田講師による講演



佐藤講師による講演

## 歯学研究科・歯学部

### 歯学研究科・歯学部の現状報告ならびに見学会

9月27日（土）13：30～16：30 歯学研究科A棟2階歯学部講堂及び北海道大学病院歯科診療センター 参加者8名

歯学研究科・歯学部では「歯学研究科・歯学部の現状報告ならびに見学会」として、本研究科所属の教員による現状報告及び北海道大学病院歯科診療センターの見学を企画しました。

歯学部講堂で開催された現状報告会では、はじめに八若保孝副研究科長・副学部長が歓迎の挨拶を述べた後、スライドを使い歯学部の現況報告等について紹介を行いました。

引き続き、飯田順一郎副病院長（歯科担当）による歯科診療センターの紹介が行われ、その後、歯科医療及び研究の最新トピックスについて、本研究科所属の11名の教員が現状報告を行いました。参加者はメモを取るなどしな

がら、各教員の説明に熱心に聞き入っていました。

希望者を対象に行われた歯科診療センターの見学では、高山芳幸講師の案内で、昨年8月末に完成し同10月1日から診療を開始した歯科外来新棟を見学しました。30分ほどの内覧ツアー

中、参加した卒業生らは高山講師の説明を聞きながら、様々な質問をし、最新の診療設備及び機器等を興味深く見学していました。

歯学研究科・歯学部の現状報告ならびに見学会は、予定時間を超えて行われ、盛会のうちに終了しました。



八若副研究科長による近況報告



高山講師の説明を聞く参加者



獣医学研究科・獣医学部

獣医学部同窓会平成26年度通常総会、  
フォーラム「未来のフロンティア・ベッツ～現役学生が語る将来の夢～」，懇親会

9月27日（土）13：00～17：30 獣医学部講義棟会議室・講堂 参加者53名

本年度も昨年度に引き続き，獣医学部同窓会通常総会及びフォーラムをホームカミングデーの日程に合わせて開催しました。

午後1時から開催した獣医学部同窓会平成26年度通常総会では，43名の同窓生にご参加いただき，平成25年度事業報告・決算の承認や平成26年度事業計画・収支予算案など計5号の議案について審議しました。その後，約40名の同窓生及び学生が参加して開催した

フォーラムでは，「未来のフロンティア・ベッツ～現役学生が語る将来の夢～」と題して，現役学生6名が自分の将来の夢についてフロンティア精神を交えて発表しました。各講演に対して卒業生1名がコメンテーターとなって学生に対するエールやアドバイスを送り，叱咤激励していました。現役学生と同窓生とのコラボレーションという点では良い企画になったのではないかと思います。思いの外，すでに長い

社会経験のある同窓生から，「仕事に対するいい刺激をもらった」「学生の新鮮な考えや若い力が故に抱える迷いなどを聞きリフレッシュできた」といった感想をいただきました。

懇親会は，午後4時15分より会議室にて開催しました。約40名の学生・同窓生の参加があり，短い時間ではありましたが，交流を深めることができました。



フォーラムの様子



懇親会の様子



同窓会集合写真

情報科学研究科

北楡会母校交流会

9月26日（金）13：30～19：30 情報科学研究科 参加者64名

9月26日（金），工学部情報エレクトロニクス学科，情報科学研究科及び旧電気，電子，情報，生体系の各学科の同窓会である北楡会が，母校交流会を行いました。

最初に，大学側とOB・OG側から最近のトピックスについて講演を行いました。大学側からは，情報科学研究科の田中孝之准教授から「いつまでも生きがいを持って働ける軽労化社会の実現に向けて～産学連携体“軽労化研究会”の取り組み」と題した講演がありました。OB・OG側からは，NTTアドバンステクノロジーの木ノ原誠司取締役から，「“Open Innovation”のすゝめ～“Ambitious”の共有をめざして～」と題した講演がありました。

引き続き，21の研究室の大学院生が，所属する研究室の研究内容について

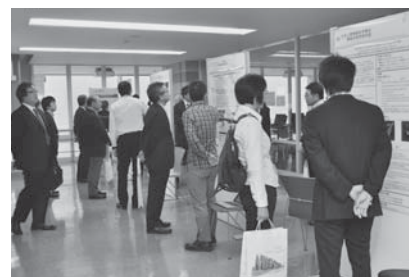
OB・OGにわかりやすく説明するというポスター発表を行いました。発表を担当する学生とOB・OGが熱心に研究内容を議論する姿が見られました。

次に，OB・OGが2グループに分かれ，各グループが実際に6つの研究室を訪問して研究活動の現場を見学するとともに，学生・教員と意見交換を行いました。

最後に，工学部食堂に場所を移し，立食パーティ形式で懇親会を行いました。OB・OG27名，職員・学生37名の合わせて64名が参加し，ポスター発表の表彰，情報エレクトロニクス学科の近況，学生の就職の話題等で大いに盛り上がりしました。最後は現役恵迪寮生のリードにより「都ぞ弥生」を歌い，散会しました。



田中准教授の講演



ポスター展示

水産科学院・水産科学研究院・水産学部／北水同窓会

## 水産学部卒業生のつどい～講演会，懇親会～

9月27日（土）14：00～17：30 百年記念会館大会議室，レストラン「ニコラスハウス」 参加者97名

午後2時から，百年記念会館大会議室において，本学部卒業生の窪寺恒己氏（国立科学博物館標本資料センターコレクションディレクター）による講演会を行い，同窓生，教員，学生あわせて70名が出席しました。窪寺氏は「ダイオウイカ，奇跡の遭遇－最新技術で迫る深海の世界－」と題して，平成24年夏に小笠原沖の深海でダイオウイカの生きている姿を世界で初めて撮影した貴重な映像を紹介し，自ら潜水艇に乗り込み撮影に挑んだ航海秘話も交えて講演をいただきました。深海の

暗闇からダイオウイカが現れる映像が映し出されると，会場は驚きと興奮に包まれていました。講演後には，出席者から数多くの質問が寄せられ，ダイオウイカへの関心の高さがうかがわれました。

その後，会場をレストランに移し，午後4時から懇親会が行われました。懇親会では，同窓生，教員，あわせて30名ほどが出席し，和やかな雰囲気のもと親睦を深め，会は盛況のうちに閉会となりました。



講演会の様子



懇親会の様子

地球環境科学研究院・環境科学院／環境科学同窓会

## 若手卒業生による講演会，コース・研究室紹介パネル展示

9月26日（金）14：00～19：30 環境科学院，百年記念会館「ニコラスハウス」 参加者31名

環境科学院では，ホームカミングデー2014に合わせ，9月26日（金）に環境科学院・環境科学同窓会の事業として，「若手卒業生による講演会」と環境科学院の4専攻の20コースを紹介する「コース・研究室紹介パネル展示」を行いました。「若手卒業生による講演会」では，本学院の博士課程及び修士課程修了生4名（各専攻1名ずつ）から，大学院時代の研究，就職活動，現在の仕事内容，現役学生へのメッセージを含め，お話しいただきました。本年は民間企業，公立の研究機関及び大学など多方面でご活躍の方々

にご講演をいただき，参加した学生や教員から多くの質問が出る充実した講演会となりました。

講演会終了後は，百年記念会館「ニコラスハウス」において，懇親会を開催しました。ご講演いただいた4名の同窓生も参加し，同窓生・教員が旧交を温めたことはもちろんのこと，現役学生からは講演会場では聞けなかった個別の質問があり，同窓生からは現役学生へのアドバイスがあるなど，和やかな雰囲気の中で交流することができました。



若手卒業生による講演会



コース・研究室紹介パネル展示

理学院・理学研究院・理学部，先端生命科学研究院／理学部同窓会

## 理学部ホームカミングデー

9月27日（土）13：30～18：00 理学部2号館玄関ロビー，他 参加者67名

3回目となる理学部ホームカミングデーは、今年も理学部同窓会の総会にあわせて開催しました。

最初に、理学部の現況報告を行い、寺尾宏明理学研究院長、高橋孝行同窓会理事長の歓迎の挨拶の後、寺尾研究院長が近年の改組により複雑化した研究院・学院組織の説明や、理学部をめぐる最近のトピックスに関して報告しました。

次いで、昨年度からスタートした博士課程教育リーディングプログラム「物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム」について、プログラムコーディネーターでもある石森浩一郎副研究院長

が、プログラムの概要、期待される効果等を紹介しました。

続いて、伊土政幸名誉教授による本館見学ツアーが行われ、耐震改修前の理学部本館の理学部長室、大会議室、応接室を見学しました。特に、改修後に移転する理学部長室、応接室は、現在の姿を見ることができ最後のチャンスで、同窓生は、当時、学生では入ることのできなかつた部屋を感慨深げに見学していました。

その後、理学部同窓会通常総会を本館大会議室で開催しました。例年どおり多くの同窓生に出席いただき、同窓会の運営に関して熱心な質問や意見交換がなされました。

総会終了後は、ファカルティハウス「エンレイソウ」で理学部&同窓会交流会を開催しました。寺尾研究院長の発声による乾杯の後、数学科出身の山口佳三総長から、教育研究活動の様々な取組について紹介がありました。会は和やかな雰囲気が進み、歓談の合間には現職教員が各学科の近況を報告し、同窓生からは理学部を応援するお言葉がありました。高橋同窓会理事長の閉会挨拶・乾杯の後、同窓生は出身学科の研究室見学、現役学生・教員との懇談会に参加して交流を深めていました。



寺尾理学研究院長の近況報告



伊土名誉教授による本館見学ツアー



同窓会総会の様子



交流会で挨拶する山口総長



## 「Sapporo Alumni Lectures」及び「市民公開・農学特別講演会」

9月26日（金）13：30～17：00 農学部大講堂 参加者101名

農学院・農学研究院・農学部では、ホームカミングデーに合わせて、「Sapporo Alumni Lectures」及び「市民公開・農学特別講演会」を開催しました。

「Sapporo Alumni Lectures」は、活躍されている卒業生から自身の経験や実社会の状況をお話していただき、現役学生が学びや将来の目標を考える機会とするため昨年度から実施しています。

はじめに、昭和62年に農業工学科を卒業し、現在、株式会社エリートネットワーク・コンサルティング事業部長の高橋 寛氏より、「農機卒 人材ビジネス27年」と題してご講演いただきました。大手企業の株式会社リクルートへ就職後、人材ビジネスの起業に参加され、その経験を基に、今後学生が直面する就職活動について、名の知れた、親も納得する企業とは逆の企業も選択してみる、モバイル社会の現代において会話がいかにか大事か、などをユーモアを交えてお話いただきました。

続いて、平成6年に農芸化学科を卒業後、奈良先端科学技術大学院大学、及び大阪大学大学院医学研究科へ進学して博士（医学）を取得された平田昭

夫氏より、「農から脳へー寄り道と反射、社会の一隅を照らせるようにー」と題してご講演いただきました。高校時代に「世の中の一隅を照らす人になれ」と教わり、『食』に関わる仕事でそれを成そうと農学部へ入学し、大学院進学を契機に神経科学、脳科学の世界に踏み込んだという経験をお話いただきました。

一方、「市民公開・農学特別講演会」は、札幌農林学会（明治31年発足）が開催してきた学術講演会を継承・発展させたもので100年以上の歴史があり、平成9年から現在の名称に改め、広く一般市民に公開しています。

講演では、本研究院の生方 信教授より「農学と生命有機化学」と題し、自身の研究成果が映画「ゴジラ対ビオランテ」のモチーフに使われたことなどに触れ、研究が現実世界でも医薬開発や科学の発展に繋がり、世界を良い方向に変えていく力を持つことなどを、ダイナミックな学問遍歴を交えて紹介しました。

3名の講演者のお話が大変面白く、会場では終始笑いが起こり、講演後は、現役学生からの質疑があるなど盛会のうちに終了しました。



「Sapporo Alumni Lectures」講師 高橋氏



「Sapporo Alumni Lectures」講師 平田氏



楽しいお話を聞き終えた聴衆

国際広報メディア・観光学院, メディア・コミュニケーション研究院

**HCD@IMCTS修了生meet在學生**

学生制作学院PRビデオ放映, 修了生講演会(1部・2部), 在學生論文発表会「SAIHATE FES」, 同窓会イベント「修了生と在學生で考える地域の観光活性化——そこが変だよ小樽観光」, 国際広報メディア・観光学院同窓会総会・懇親会

9月27日(土) 13:00~20:00   メディア・コミュニケーション研究院メディア棟   参加者78名

国際広報メディア・観光学院のホームカミングデーは今年も本学院の学生が制作した「学院PRビデオ」の放映で開幕しました。

修了生講演会第1部では、幸坂 浩氏(北海道新聞社編集局経済部)より、「経済のトレンドの生まれる時—人手不足」と題して、経済のトレンドの生まれるプロセスと報道現場での多様な視点のせめぎあいについてお話いただきました。第2部では森重昌之氏(阪南大学国際観光学部准教授)より「私の大学院生活と観光創造専攻」と題して講演いただき、ご自身の経験

に即して大学院での過ごし方や学位論文作成のポイントについて説得力のあるご助言をいただきました。

在學生論文発表会「SAIHATE FES」では、4名の在學生より、日本語教育及び英語教育を効果的に実践するための方策という研究から、結婚披露宴での招待客のもてなし方、地域貢献に関わる気概にあふれた活動報告まで、バラエティに富んだ発表がありました。修了生も熱心に聞き入り、励ましの言葉を贈るなど、「修了生meet在學生」という企画テーマを体現できました。

初めての試みである同窓会イベント

では、修了生3名と在學生6名が小樽の観光をテーマにディスカッションを行い、本学院の伝統であるプロジェクト型演習を再現しました。聴衆からも活発な質疑応答が行われ、見所のある催しとなりました。

同窓会総会では、札幌、東京、北京における活発な活動について報告が行われ、今後、同窓会の組織率をさらに高めていくことを課題に挙げました。続く懇親会は修了生、教員、在學生で賑わい、大盛況となりました。

工学院・工学研究院・工学部

**工学部創立90周年記念事業(記念式典, 記念講演会, 祝賀会)**

9月27日(土) 14:30~18:30  
 <式典・講演会>フロンティア応用科学研究棟鈴木章ホール   <祝賀会>工学部リフレッシュホール(工学部食堂)   参加者167名

9月27日(土)午後2時30分から、工学部創立90周年を記念して、記念式典、記念講演会及び祝賀会を開催しました。全国から多くの同窓生や名誉教授にご参加いただき、現役教職員を合わせ150名以上の参加となりました。

式典では、名和豊春工学部長及び宮永喜一副工学部長から式辞が述べられ、山口佳三総長の挨拶の後、元工学部長及び元総長である、丹保憲仁北海道立総合研究機構理事長、及び佐伯浩寒地港湾技術研究センター代表理事会長に祝辞をいただきました。

引き続き開催した講演会では、はじめに、土屋定之文部科学省文部科学審

議官から「挑戦する工学への期待」というテーマで、これからの国立大学の在り方や、「工学」の在り方についてお話がありました。続いて、福島工業高等専門学校の佐藤正知特命教授から「今後半世紀にわたる廃炉を支える技術者の育成に向き合う」というテーマで、福島第一原子力発電所における廃炉作業やそれに取り組む人材の育成についてお話をいただきました。

午後5時からは祝賀会が行われ、名和工学部長及び平野道夫工学部同窓会理事長からの挨拶の後、谷口 博名誉教授による祝杯の音頭で懇談に移り、和やかな雰囲気の中、足立 守工学部

同窓会東京支部長、石山 喬北海道大学連合同窓会会長、土岐祥介名誉教授、岸浪建史名誉教授及び北海道電力株式会社の真弓明彦社長のスピーチに続き、同窓生である桜井 宏衆院議員からの祝電披露及びご本人からの挨拶があり、最後は、馬場直志前工学部長の乾杯で盛会のうちに終了しました。



名和工学部長の式辞



山口総長の挨拶



講演する土屋文部科学審議官



祝賀会

北海道大学工学系イノベーションフォーラム2014

9月26日（金）13：30～16：15 情報科学研究科A21教室・2階ロビー 参加者102名

本フォーラムは、地域連携や社会連携に向けた研究支援を目的とした工学系連携推進部と、工学部情報エレクトロニクス系及び情報科学研究科の同窓会である北楡会の共催事業として実施しました。

開会の挨拶の後、講演の部としてイノベーションに関連した講演を情報科学研究科A21教室で実施しました。

はじめに、情報科学研究科の田中孝之准教授から「いつまでも生きがいを持って働ける軽労働化社会の実現に向けて～産学連携体“軽労化研究会”の取り組み」と題して講演がありました。

次いで、NTTアドバンステクノロジー

株式会社の木ノ原誠司取締役から「“Open Innovation”のすゝめ～“Ambitious”の共有をめざして～」と題してご講演いただきました。

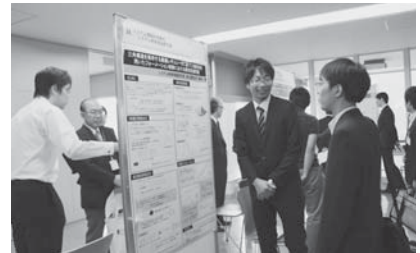
引き続き、ポスター発表の部として、2階ロビーで工学研究院・情報科学研究科の最近の代表的な研究成果について、37題のポスター発表を実施しました。

このポスター発表のうち21題については、工学系連携推進部ホームページの工学系研究者シーズ集Vol.12に公開していますので、ぜひご覧ください。

◆ <http://labs.eng.hokudai.ac.jp/office/elo/jp/>



講演の部（田中准教授）



ポスター発表の部

応用物理学科創立50周年記念講演会・祝賀会

9月26日（金）14：00～16：00, 18：00～20：00 フロンティア応用科学研究棟、京王プラザホテル札幌2階エミネンスホール 参加者146名

工学部応用物理学科の創立50周年を祝う記念講演会と祝賀会を、9月26日（金）にフロンティア応用科学研究棟鈴木章ホールで開催しました。全国より100名を超える元教職員、卒業生、現役教員、在学生が会場に集いました。

最初に実行委員長の馬場直志特任教授から開催の挨拶の後、西口規彦コース長から、同学科の50年にわたる学科と学科を取り巻く環境の変遷について

説明がありました。講演では、佐久間哲郎名誉教授より「北大応用物理学科の歩みとこれからの50年」というテーマで、学科創設の経緯やその後の大学院重点化について様々な話題とともに懐かしいお話がありました。次いで、文部科学省科学技術・学術政策局長の川上信昭氏より「外から見た大学、北大、応用物理学科」をテーマにお話があり、これから本学の目指す方向など

について示唆されました。

その後、京王プラザホテルにおいて祝賀会を開催しました。朝倉利光名誉教授の乾杯を皮切りに、元教員及び卒業生からのスピーチがあり、コース長の乾杯を持って祝賀会を終了しました。参加者数は146名にもなり、盛況な記念講演会・祝賀会となりました。



講演する佐久間氏



講演する川上氏



講演会での集合写真



祝賀会



祝賀会での集合写真



## 北方生物圏フィールド科学センター

## 「生物生産研究農場」ミニツアー、植物園の見学

9月27日(土) ミニツアー/14:30~16:00, 植物園/9:00~16:30 生物生産研究農場, 植物園 参加者36名

北方生物圏フィールド科学センターでは、耕地圏ステーション生物生産研究農場のミニツアーと、植物園の見学を実施しました。

「生物生産研究農場」ミニツアーにおいては、4名の参加者があり、放牧地、牛舎及びスキ試験圃場で山田敏彦農場長が説明を行いました。参加者からは、身近に作物や家畜に触れられたと、好評でした。

また、植物園においては、幅広い年代にわたる卒業生等32名が来園し、温室・博物館・宮部金吾記念館など園内を懐かしそうに見学していました。



「生物生産研究農場」ミニツアー



「植物園の見学」の来園者

## 附属図書館

## 企画展示：北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展：第1期：漂流民大黒屋光太夫の帰還とラクスマン来航

9月27日(土) 9:00~19:00 附属図書館本館ロビー 参加者17名

附属図書館では、『北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展（第1期：漂流民大黒屋光太夫の帰還とラクスマン来航）』と題して、附属図書館が所蔵するコレクションからの資料展示を実施しました。

併せて、総合博物館の「学船 洋上のキャンパスおしよる丸」展の応援展示である『おしよる丸』展や、サステナビリティ・ウィーク参加企画展示『食と農から考えるサステナビリティ』パネル展も開催しました。

『「江戸・蝦夷・ロシア」交流展』は、伊勢国の船頭・大黒屋光太夫と磯吉ら17名が、駿河沖で遭難しロシア領アリューシャン列島に漂着してか

ら帰国に至るまでの10年間の足跡や、帰国後の江戸幕府の取り調べ等を、所蔵する資料で辿っています。同時に館内では、井上 靖、吉村 昭、亀井高孝等の関連書籍も展示紹介しました。

『おしよる丸』展は、総合博物館の協力のもと、おしよる丸V世の造船や平成25年度60日間航海の動画のほか、「寄港地からの盾」や「航海日誌」などを展示しました。

『食と農から考えるサステナビリティ』パネル展では、2014年度国連が定める「国際家族農業年」や「世界農業遺産（GIAHS）」、「北大マルシェ」等を紹介しました。

行事参加者数は17名でしたが、道外

からの参加者が多く、久しぶりの館内見学に加え、「恩師の著書があった」「探している本が見つかった」など、図書館としても活用していただきました。また、自著のご寄贈もあり、短い時間を有意義に過ごしていただきました。



「北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展」



『おしよる丸』展



『食と農から考えるサステナビリティ』展



資料の場所を尋ねる参加者

総合博物館

北大ミュージアムクラブMouseionの学生による展示解説

9月27日(土) 11:00, 11:30, 13:00, 13:30 (各回25分) 総合博物館 参加者40名

総合博物館で活動する北大ミュージアムクラブMouseionに所属する現役学生が、午前と午後に分けて計4回、展示解説を行いました。担当したのは次の4名で、それぞれが関心のある分野、専門に学んでいる分野の解説を行いました。「氷の海の民のお話」(岸百合子・文学部3年)、「未来を担う新たな燃料～バイオマス燃料～」(岩崎峻・水産学部2年)、「北大の全人教育」(雲中 慧・水産学部2年)、「牛」(井宮汀士郎・教育学部1年)。

いずれの回も、卒業生や様々な年代の来館者の方が熱心にご参加くださり、学生が活躍する大学博物館らしい取り組みとして好評でした。解説終了後にも質問や感想があり、卒業生からは当時の学生生活について話していただき、展示室で和やかな交流の場が生まれました。

解説シナリオの作成、博物館教員らによるシナリオの監修、ビデオレッスンなどを通じたコミュニケーション方法の検討など、準備を重ねてきた解説

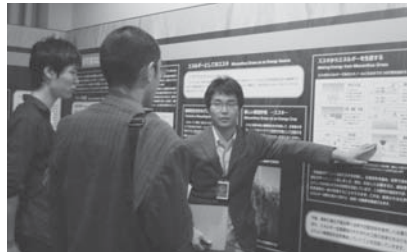
者達に、参加者からは大変励みになるお言葉を多くいただきました。また、ミュージアムクラブの他のメンバーが解説者をサポートし、解説の場づくりに貢献しました。



解説終了後に卒業生と談笑



学生による展示解説1



学生による展示解説2



学生による展示解説3

北大キャンパスビジットプロジェクト (学務部入試課担当)

キャンパスツアー —現役北大生とめぐるキャンパス今昔—

9月27日(土) 13:00~15:00 札幌キャンパス構内 参加者12名

全体行事の会場となったクラーク会館を出発し、参加者の出身学部に応じてコースを分けて札幌キャンパス構内を順次巡り、高等教育推進機構を最終地点としたツアーを実施し、12名の方に参加していただきました。

ツアー中は、スタッフである現役学生がコース中にある各学部の現在の様子などを紹介し、参加者から本学で学ばれていた当時の話を伺うという形で

進行しました。参加者からは本学で学ばれていた当時の思い出を懐かしむ声や、構内の新しい建物に関する質問などがあり、スタッフの現役学生がそれに答えながら参加者の在学当時の様子について詳しく聞く場面があるなど、現役学生と同窓生が交流を深める貴重な機会となりました。

ツアー終了後には、参加者から「豊富な知識による丁寧な説明で楽しめた」

「今のキャンパスの状況がわかって良かった」等の感想が寄せられました。

北大キャンパスビジットプロジェクトでは、年に数回、一般市民向けのキャンパスツアーを行っており、今年は11月にも実施する予定です。今回、ご参加いただいた方々から伺うことができた過去の様子なども参考にし、これからのキャンパスツアーをより良いものにしていきます。



現役学生スタッフによるガイドでツアー



現役学生と同窓生とが語る場面



同窓生からは昔を懐かしむ声も



## 学務部学生支援課

課外活動施設の見学，落語研究会「ききょう寄席」，  
写真部 写真展&写真撮影サービス，陸上ホッケー部 OB戦

## 課外活動施設の見学

9月27日（土）13：00～16：00 体育館，武道場，サークル会館，遠友学舎 参加者5名

学生がスポーツ，武道等の体育系部活動や音楽等の文化系活動で使用している施設（体育館，武道場，サークル会館）と，展覧会やコンサートを通じて同窓生や市民と交流するための施設

（遠友学舎）の施設開放を行いました。訪れた卒業生は，施設内を自由に見学し，部活動中の学生の様子を楽しんでいました。



体育館外観

## 落語研究会「ききょう寄席」

9月27日（土）14：00～16：00 クラーク会館3階和室 参加者50名

公認学生団体の落語研究会が，学生OBや4年目会員による「ききょう寄席」を開催しました。多くの卒業生や市民で満員の会場では，会員による巧みな話芸が披露されると，観客から大きな笑い声や拍手が起きていました。



クラーク会館の外で呼び込みをする会員



満員の寄席の様子

## 写真部 写真展&amp;写真撮影サービス

9月27日（土）写真展／10：00～16：30 クラーク会館3階展示場 参加者50名  
写真撮影サービス／10：00～16：00 構内各所（クラーク像付近等） 参加者60名

公認学生団体の写真部が写真展を開催しました。訪れた卒業生は，部員が普段の部活動で撮影した作品を鑑賞しながら部員との交流のひとときを楽しんでいました。

また，卒業生にキャンパスを訪れた記念に写真を残してもらおうと，部員が構内各所で写真撮影サービスを行いました。クラーク像やポプラ並木等の撮影スポットで多くの卒業生の笑顔を撮影することができました。



個性溢れる作品揃いの写真展

## 学生による歓迎企画「陸上ホッケー部 OB戦」

9月27日（土）12：00～15：30 ホッケー・ハンドボール場 参加者42名

公認学生団体の陸上ホッケー部が，学生と卒業生の交流試合である「OB戦」を開催しました。例年，春と秋に開催しているもので，今年はこちらの秋のOB戦がホームカミングデーと同

日ということもあり，陸上ホッケー未経験の卒業生も参加し行われました。

当日は多くの卒業生が集まり，スポーツを通じ，世代を超えた交流を楽しんでいました。



試合を楽しむ卒業生と在学生



ほっかいどう同窓会

北海道の食を楽しむイン北大

9月27日(土) 食事提供/11:30~14:00, 展示/10:00~14:00 クラーク会館食堂及びホール 参加者 食事提供:134名 展示:約200名

ほっかいどう同窓会では、全学行事の歓迎式典等との連携と本同窓会へのお誘いを配慮し、クラーク会館の食堂とホールにおいて「北海道の食を楽しむイン北大」というテーマで、北海道ブランドのランチプレートの提供とパネル展示を行いました。

ランチプレートはジンギスカンや

チャンチャン焼きのほか、秋の味覚を盛り込んだメニューが好評で134名の方に楽しんでいただきました。

パネル展示では、北海道認定の「ヘルシーDo商品」と、本学とノーステック財団が取り組んでいる「フード&メディカルイノベーション国際拠点事業」を紹介しました。展示はOBの方

のみならず一般の方々にも興味を持っていただいたようで、案内者に質問しながら展示を楽しんでいる様子が見られました。

なお、当日は10数名の方が新たに入会し、本年4月に創立した本同窓会の会員は433名に達しています。



パネル展示の様子



ランチプレートを求める来場者



ランチプレートを楽しむ来場者

恵迪寮同窓会

文化講演と寮歌の集い

9月27日(土) 15:00~18:00 クラーク会館大集会室 参加者58名

恵迪寮同窓会は、懐かしいクラーク会館大集会室にて「文化講演と寮歌の集い」を50数名の参集を得て行い、盛況裡に終了しました。

文化講演は、本学元副学長の藤田正一氏(S38:入寮年,以下同)が「北大の源流・日本のオルターナティブ」と題して、クラーク博士が種を蒔き、本学の前身・札幌農学校で生まれた清き精神の系譜・波及と、それを消し去りたい力の存在について述べられ、この混迷の時代にこそ札幌農学校で生まれた清き精神が必要であると力強く語られました。浮かび上がる先人とその精神を想い、改めて卒業生であることを誇りに思うホームカミングデーにふさわしい講演でした。

寮歌の集いは、東京から参加してくれた昭和21年寮歌「時潮の波の」作曲家である寺井幸夫氏(S19)のスピー

チ、「時潮の波の」の斉唱、横山清会長(S31)による乾杯のご発声で開宴しました。

寺井氏は、ご夫妻でお見えになりましたが、ご両人とも夔々としておられ、健康の秘密は「寮歌」を歌うことと話されました。参加者は、寮歌集の中に伝説化した作者と高唱できる稀有な機会に恵まれ、感激を共有していました。

また、中国語版「都ぞ弥生」訳歌者の須賀正太郎氏(S28)、昭和32年寮歌「花繚乱の」作歌作曲者である前島一淑氏(S31)、昭和59年寮歌「雪の白さに」作曲者である青木毅氏(S58)等も遠方から参加してくれました。

田島優寮長ら現恵迪寮生8名がこぶしを挙げてリズムをとる姿に、全国で唯一、寮歌を創り続けている恵迪寮の精神の継承を確認できました。

最後に、来年の再会を期して「都ぞ弥生」と「別離の歌」を高唱しました。



文化講演で熱弁をふるう藤田元副学長



寮歌の集いで最新の寮歌を披露する現恵迪寮生

## 平成26年度スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA（トップ型）に採択



記者会見で説明する山口総長

平成26年度スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」タイプAに、本学が提案した構想「Hokkaido ユニバーサルキャンパス・イニシアチブ～世界に開かれ世界と協働～」が採択されました。

9月26日（金）には、記者会見を実施し、報道機関8社による取材がありました。構想責任者である山口佳三総長より、次のとおり概要の説明を行いました。

本構想は、今年3月に発表した「北海道大学近未来戦略150」を基盤にして

います。同戦略は、平成38年に本学が創基150周年を迎えるにあたり、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」というビジョンを掲げて取り組む中期的な大学改革戦略です。この達成に向けての取り組みを加速すべく、本構想では「ユニバーサル・キャンパス」というコンセプトを打ち立てました。これは、課題解決に向けて協働する世界のあらゆる場所を北海道大学のキャンパスにし、本学を「世界に開かれ、世界と協働する大学へ」と徹底的に変革することです。本構想は、多くの施策と事業で構成される複合的で全

学的な改革の取り組みであり、50項目以上の目標値を掲げています。

本構想では、世界大学ランキング100位以内に入ることを目標の一つとして掲げています。それに向け、最初の5年間は、北海道大学の国際的知名度を向上させると同時に、国際共同研究を増やすことで、評判スコアと国際共著論文数を増加させます。後半の5年間は、前半で芽を出した国際共同研究を、新たな強み領域へと成長させ、また先行する5年間の効果と合わせて、被引用数を格段に向上させます。こうした取り組みの相乗効果により、10年後にはTimes Higher Education 大学ランキング100位以内の達成を目指します。

本構想を通じ、教育研究の国際通用性を飛躍的に向上させ、国際競争力を着実に強化することによって、「世界の課題解決に貢献する北海道大学」を実現します。

◆採択された各校の構想調書ダウンロードページ（独立行政法人日本学術振興会）

<http://www.jsps.go.jp/j-sgu/kekka.html>

（国際本部国際連携課）

# インフォメーションセンター「エルムの森」 利用者100万人達成！

9月16日（火）、インフォメーションセンター「エルムの森」の利用者数が100万人に達し、記念セレモニーを行いました。

同センターは、正門横という恵まれ

た立地に位置し、昨年度は1年間で17万5千人もの利用がありました。

100万人目の利用者となったのは、酪農学園大学5年生の川倉茉祐子さんです。川倉さんは、大学の先輩である

工藤逸美さんとインフォメーションセンターを訪れました。前回、学会で本学を訪れた際、高等教育推進機構付近の様子しか見ることができず、色々と散策してみたいとの思いからこの日の訪問となり、インフォメーションセンターにはキャンパスマップをもらうために立ち寄ったとのこと。

記念セレモニーでは、山口佳三総長から川倉さんに、100万人目の認定証書と北大グッズが贈られました。100万人目の感想として川倉さんは「テレビなどで達成セレモニーを見ていましたが、まさか自分がとびっきりしています。今日が誕生日なのでいい記念になりました」と語ってくれました。

100万人達成を契機に、これからも多くの方々に親しまれ、利用していただける広報拠点を目指し充実を図っていきます。



山口総長から北大グッズを受け取る川倉さん（左側）

（総務企画部広報課）

## インフォメーションセンター「エルムの森」概要

平成15年5月、「旧札幌農学校昆虫学及養蚕学教室」を改修し、市民や観光客が休憩など自由に利用できる広報センターとして北大交流プラザ「エルムの森」を設置。利用者の更なる利便性向上を図るため、平成22年6月に正門横の旧守衛室跡にインフォメーションセンターとして移転、オープンしました。

インフォメーションセンターでは、本学に関するご案内のほか、研究成果等の情報発信を行っています。また、北大グッズを購入できる「エルムの森ショップ」やカフェを併設。木のぬくもりを生かした明るい建物で、多くの方々に利用されています。



インフォメーションセンター「エルムの森」外観



## 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 連携大学地域巡回フォーラム「北海道ブロック大会」開催

9月22日（月）午後3時から、学術交流会館第1会議室において、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会連携大学地域巡回フォーラム『北海道ブロック大会』」が開催されました。

一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、現在本学をはじめ全国の600校近い大学・短期大学との間で、それぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取り組みを進めるために、相互に連携・協力体制を構築することを目的として連携協定を締結しています。このフォーラムも、北海道ブロックの連携大学の学生・関係者を中心に、各大学がどういった取り組みをしたらいいのか、大学と地域でどのような連携ができるか、2020年大会をどんな大会にしたいかなどについての意見聴取を目的として、同組織委員会が主催し、本学の共催のもと開催されたものです。

フォーラムには、道内の協定大学の教職員・学生や自治体関係者等約80名が参加し、主催者を代表して同組織委員会の布村幸彦副事務総長、本学を代表して三上 隆理事・副学長の挨拶等の後、同組織委員会参加である筑波大学の真田 久教授の進行により、2020年オリンピック・パラリンピック競技



本学を代表して三上理事・副学長の挨拶



フォーラムの様子



最後に参加者で記念撮影

大会を「どのような大会にしたいか」、「どのように係わりたいか」、「大学、自治体としてどのような参加、活動がしたいか」等について、会場の参加者に対して意見が求められました。

これに対し参加者からは、それぞれの専門性を生かすための方策や、多様

性の視点の重要性、学生組織による主体的な係わり方などについて、本学学生を中心に多くの建設的な発言があり、活発な意見交換が行われるなど盛会裏に終了しました。

（総務企画部総務課）

## 独立行政法人日本学術振興会 平成25年度特別研究員等審査会 専門委員及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から6名

8月1日（金）、独立行政法人日本学術振興会より、平成25年度特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員の表彰者が公表されました。今回は、書面審査において有意義な審査意見を付した専門委員等とし

て、対象者約900名の中から84名が選考されています。

本学からは、情報科学研究科 原口誠教授、地球環境科学研究所 久保川厚教授、理学研究所 松王政浩教授、村越 敬教授、藤田知道准教授、低温

科学研究所 渡辺 力教授の6名が表彰されました。

表彰者に対しては、川端和重理事・副学長より、各部署にて記念品が手渡されました。

（研究推進部外部資金戦略課）

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	16,339件	2,927,796,429円
基金累計額（9月30日現在）	教職員の寄附率	33.5%（1,313件/3,921人）

## 9月のご寄附状況

法人等6社、個人101名の方々から38,768,500円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

医療法人社団 あそう眼科、医療法人社団弘智会 おおつば歯科クリニック、医療法人 ながのこどもクリニック、  
国立臺灣科技大駐校藝術家 朱 振南、北海道大学合唱団OB会、北海道武蔵女子短期大学

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青木 庸治	浅野 賢二	石原 道紀	伊藤 利文	井上 勝	入澤 秀次	越後 明
大森 一吉	奥野 一嘉	小田川泰久	小内 透	小原 大和	婦山 雅秀	桂下 康雄	加藤 隆士
加藤 雅彦	金川 眞行	亀澤 一昭	河本 充司	菊地 浩吉	小林 洋巳	金 武彦	斉藤 久
斉藤 有	桜井 利江	佐藤 紘一	清水 智之	志茂 和男	白石 隆男	菅原 秀二	須田 孝徳
瀬田石榴枝子	瀬戸 潮	瀬名波栄潤	高木 文昭	高田 肇	高橋 光彦	高畑 智嗣	竹中 初男
竹谷 千里	辻 幸生	土家 琢磨	寺澤 睦	豊田 威信	中畠 孝幸	新妻 徹	西村 隆男
西谷内力世	西山 恒夫	野口 隆史	橋本 紘治	長谷川直人	早川 和雄	広瀬 雅哉	船津 秀樹
船水 康宏	古川 俊実	皆見 政好	宮坂 榮二	森岡 仙太	森本 義興	柳谷 憲治	山内 隆嗣
山崎 賢司	山下 謙二	山田 弘幸	山田 尚達	山田 良子	吉岡 充弘	吉田 広志	力示 育実
渡会 雅明							

### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

#### （法人等）

国立臺灣科技大駐校藝術家 朱 振南、北海道大学合唱団OB会

#### （個人）

大森 一吉、菊地 浩吉、船津 秀樹、山下 謙二、山田 尚達、山田 良子、力示 育実

## 感謝状の贈呈

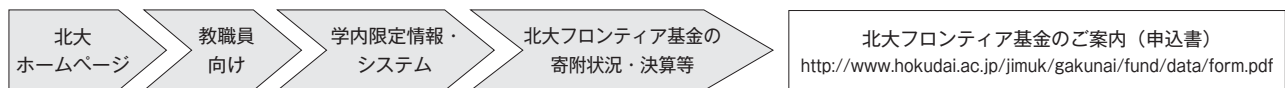


北海道大学合唱団OB会様  
(平成26年10月14日)

## ご寄附のお申し込み方法

## ① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



## ② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

## ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

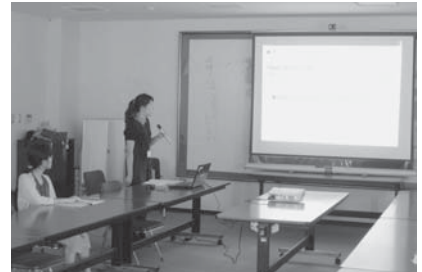
（総務企画部広報課）



# 平成26年度北海道大学インターンシップを実施



全体オリエンテーションの様子



インターンシップ実習生による成果発表の様子

本学学生を対象としたインターンシップを、9月1日(月)～5日(金)の5日間(附属図書館は9月1日(月)～9日(火)の7日間、学務部キャリアセンターは9月1日(月)～12日(金)の10日間)の日程で実施しました。

本インターンシップは、特に近年、社会的にインターンシップへの参加希望者が増加していること、本学卒業生に係る進路状況においても就職先として本学が高い順位を示していること等を踏まえ、学生に就業体験の機会を与えることにより、職業意識の育成・向

上に寄与し、併せて本学に対する理解を深めることを目的として実施しています。

昨年度は、8部局で11名の学生を受け入れましたが、今年度は9部局に拡大し、12名の学生を受け入れました。(下表参照)

初日は実習生全員を対象として、インターンシップ開講式及び全体オリエンテーションを実施し、各実施部局担当者から「組織運営」「財務」「学務」「施設」「国際」「図書」の6つのテーマに基づき、本学の概要が説明されました。

実習生の中には、初めての就業体験に緊張や戸惑いを見せる学生もいましたが、担当職員から業務の説明を受けると真剣に聞き入り、積極的に業務に取り組んでいました。実習生からの実習報告では「就職活動に対する意識がより一層高まった」「大学職員の仕事の幅広さに驚いた」「大学職員一人ひとりが仕事に誇りややりがいを持って取り組む姿が印象的だった」などの感想が寄せられました。

(総務企画部人事課)

実施部局	実習開始日～終了日 【実働日数】	実習生	
		所属	学年
総務企画部	9月1日(月)～9月5日(金)【5日】	教育学院	修士1年
財務部	9月1日(月)～9月5日(金)【5日】	経済学部	3年
学務部	学務企画課	9月1日(月)～9月5日(金)【5日】	生命科学院 修士1年
	教育推進課	9月1日(月)～9月5日(金)【5日】	経済学部 2年
	学生支援課	9月1日(月)～9月5日(金)【5日】	文学部 3年
	キャリアセンター	9月1日(月)～9月12日(金)【10日】 (土日を除く)	文学部 3年
		文学部	2年
施設部	9月1日(月)～9月5日(金)【5日】	薬学部	2年
国際本部	9月1日(月)～9月5日(金)【5日】	農学部	3年
附属図書館	9月1日(月)～9月9日(火)【7日】 (土日を除く)	理学院	修士1年
		文学部	3年
		工学部	2年

## 総長室事業推進経費による「教育プログラムの開発研究」の 成果発表ワークショップを開催

9月18日（木）、情報教育館共用多目的教室（2）において、本学教職員を対象とした「教育プログラムの開発研究」の成果発表ワークショップを開催しました。

このワークショップは、平成25年度に教育改革室が総長室事業推進経費による「教育プログラムの開発研究」で採択したプロジェクト研究の成果を全学的に共有し、より広く活用することを目指して今年度初めて実施したものです。各プロジェクト研究の代表者による研究報告と併せて、参加者全員が全学教育、学部教育及び大学院教育の改善について議論する機会を設け、ファカルティ・ディベロップメントとして位置づけました。

当日は本ワークショップの発案者である新田孝彦理事・副学長の挨拶に始まり、続いて8名の研究代表者がそれぞれの研究成果について、各自10分の発表時間を守りつつも、充実した内容の発表を行いました。また、山下正兼高等教育推進機構副機構長から「教育改革のために今求められるプロジェクト研究とは」と題して、「教育プログラムの開発研究」事業によるプロジェクト研究の実績や今求められている内容について講演がありました。

予想を上回る人数の教職員が参加し、発表の内容や本学の教育に関する課題などについて活発な質疑応答及び議論が行われました。新田理事・副学長からは、「本学の教育改革が進んで

いることが実感できる、有意義なワークショップだった」との講評がありました。

総長室事業推進経費による「教育プログラムの開発研究」については、来年度も学内公募を行う予定です。過去の報告書は本学ウェブサイト（<http://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/education/>）に掲載していますが、その他不明な点は以下の担当にお問い合わせください。

◆学務部学務企画課教育支援担当

内線：5567

E-mail：suishin@academic.hokudai.ac.jp

（高等教育推進機構）



新田理事・副学長の挨拶



会場の様子

# 未来創薬・医療イノベーション拠点形成事業 第12回国際シンポジウム ~Perspectives of Molecular Imaging and Target Therapy/ これまでの成果と今後の展望~を開催

9月4日(木)・5日(金)の2日間、第12回となる未来創薬・医療イノベーション拠点形成国際シンポジウムを、医学部学友会館フラテ大ホールにて開催しました。(企画:玉木長良教授・本事業医療部門研究統括,久下裕司アイソトープ総合センター教授,志賀 哲医学研究科准教授)

川端和重理事・副学長,笠原正典医学研究科長,神田忠雄氏(文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課 地域支援企画官)の挨拶に続き行われた国際シンポジウムでは、高精細のPET/SPECTシステム及び分子プローブの開発研究,さらには分子標的の化学療法・放射線治療に関する研究が進展していることを背景に、メインテーマを“Perspectives of Molecular Imaging and Target Therapy”(分子イメージングと標的治療の展望)に設定しました。将来の個別化医療の推進のため、分子レベルでの超早期診断,病態評価から最適治療までのストリームラインを確立することを目指して,そのための最新の機能診断法と最新治療の動向について,国内外から研究者をお招きして発表していただきました。

国外からは、核医学分野の若手研究者として世界的に活躍されているドイツ・ハノーバー医科大学のFrank M. Bengel教授が、分子,心血管細胞療法に関する分子イメージングの最新の研究動向について,また,放射線治療の立場から,アメリカ・MDアンダーソンがんセンターのJoe Y. Chang教授が、臨床腫瘍学の立場からみたPET/CTイメージングの研究と今後の展望等についてご講演されました。

国内からは、九州国際重粒子線がん治療センターの塩山善之副センター長に、重粒子線治療の最新動向等について,薬剤の分子イメージングの立場から,京都大学薬学研究科の小野正博准

教授に、アルツハイマー病におけるPET/SPECTの分子イメージング研究の動向について,ご講演いただきました。また,国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIIS)の機構長である筑波大学の柳沢正史教授には,オレキシンの発見から突然変異誘発個体を用いた睡眠研究,新たな創薬のターゲット開拓などについてご講演いただきました。

また,本学の若手研究者の発表として,MDアンダーソンがんセンターの留学から戻ったばかりの竹内 啓助教(医学研究科)が教育講演を行いました。

2日目は,10年間の実施期間の9年目となった当該事業における産学連携の取組について,「これまでの成果と今後の展望」と題したパネルディスカッションを実施しました。医療部門は「分子イメージングとイメージングデバイス」,創薬部門は「次世代医薬品候補を連続的に創出する拠点の形成」というテーマで,本学と協働企業の研究者がこれまでの成果を踏まえ

て,今後の研究活動や拠点形成について活発な議論を展開しました。

今回は,シンポジウムを締めくくる特別企画として,東京工業大学の大隅良典特任教授による「オートファジーを担う分子機構と生理機能」と題した特別教育講演もあり,会場では数多くの学生や研究者が熱心に大隅特任教授のご講演に耳を傾けていました。

毎年同時に行われているポスターセッションでは,例年より多い36題ものテーマが展示されました。今回からポスター賞が設けられ,「質の高い発表が多かった」と,審査委員長である玉木教授,五十嵐靖之特任教授・本事業創薬部門研究統括からの講評のあと,4名の受賞者にトロフィーが贈られました。

本シンポジウムには2日間を通して延べ340名もの来場者があり,成功裡に終了することができました。

(創成研究機構)



(上)川端理事・副学長,笠原医学研究科長の挨拶  
(左下)文部科学省 神田氏の挨拶  
(右下)シンポジウム会場の様子



(上)柳沢教授, Chang教授  
(下)塩山副センター長, 竹内助教



(上)小野准教授, Bengel教授  
(下)パネルディスカッション



(上)ポスターセッションとポスター賞受賞者  
(左下)大隅特任教授 (右下)玉木教授の挨拶



## 第2回COI-Tプログラム「『食と健康の達人』拠点」 参画機関会議を開催



意見交換の様子

9月4日（木）、日立マクセル株式会社（東京都千代田区）において、COI-Tプログラム「『食と健康の達人』拠点」参画機関会議を開催しました。

本プログラムは、個人・家庭を中心に据えた食・健康・医療の情報統合による社会変革を目指すため、筑波大学と協働し、実証フィールドの形成に向けた自治体との調整企業と一丸となったニーズ探索等、拠点形成に向けた検討を行うことを目的としています。

今回の会議では、筑波大学、参画企業20社、参画機関2社、医薬・食品・住宅・報道等の各業界から検討企業7社にご参加いただき、①10年後の社会イメージ、②10年後の大学へ期待すること、③COIの取組についての大学に

対する意見を題材に、デザイン思考の1つのステップとして、ポストイットと模造紙を用いたプロトタイピングによるグループ討論を行いました。様々な意見が続出し活発な議論が行われ、新しいアイデア創出への一里塚を体験する機会となりました。

その他、吉野正則プロジェクトリーダー（産学連携本部客員教授、株式会社日立製作所 中央研究所 シニアプロジェクトマネージャー）より「今後の方向性」についての説明、また、筑波大学の太田倫博准教授より「運動と健康プロジェクト」の紹介、参画企業の皆様より各テーマの進捗状況の説明が行われました。引き続き、産学連携本部の鷲見芳彦産業イノベーション部

長より、来春北キャンパスで竣工予定の「フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI）」についての紹介が行われました。

本プログラムでは、今後も定期的に会議を開催し、産学官の関係者が相互に意見交換・情報共有できる場を設ける予定です。終わりに、本会議開催にあたり、ご配慮・ご協力いただきました皆様に改めてお礼申し上げます。

◆連絡先：産学連携本部

Tel：011-706-9561 Fax：011-706-9550

E-mail：jigyo@mcip.hokudai.ac.jp

（産学連携本部）



グループ討論の様子



吉野プロジェクトリーダー



太田准教授（筑波大学）

## 「北海道地域3大学2公設試 新技術説明会」を開催



新技術説明会の様子

9月8日(月)・9日(火)に、JST東京本部別館ホール(東京・市ヶ谷)において、独立行政法人科学技術振興機構と本学産学連携本部が主催し、室蘭工業大学、北見工業大学、北海道立総合研究機構、函館地域産業振興財団が共催する「北海道地域3大学2公設試 新技術説明会」を開催しました。

本新技術説明会は、北海道地区の大学・高等専門学校・公設試験研究機関の材料・デバイス・装置、ライフサイエンス、計測・分析、環境・エネルギー、情報・通信、製造技術分野の特

許技術シーズを集めて、研究者が自らの特許技術について実用化を展望した技術説明を行い、広く実施企業・共同研究パートナー等と産学連携マッチングを図るイベントです。平成22年度から北海道地区の大学・高等専門学校と連携して開催しており、今年度は新たに函館地域産業振興財団の参加を得て、5回目の開催となりました。2日間で18件の講演発表(本学からの講演発表11件)が行われ、来場者数179名、技術個別相談件数36件といずれも昨年度より増加し、技術個別相談件数はほぼ倍増(昨年度:19件)という成

果を挙げました。今後も引き続き技術移転活動に従事し、成果に反映させていきます。

なお、平成27年1月21日(水)に、本学において「新技術説明会 in HOKKAIDO(仮称)」の開催を予定していますので、ご興味のある方は以下の連絡先までご照会ください。

◆連絡先

E-mail : [jigy@mcip.hokudai.ac.jp](mailto:jigy@mcip.hokudai.ac.jp)

(産学連携本部)



山本 強産学連携本部副本部長の冒頭挨拶



鷺見芳彦産学連携本部イノベーション部長の閉会挨拶

## 北海道大学総合技術研究会を開催

9月4日（木）・5日（金）の2日間にわたり、高等教育推進機構を会場に、全国的技術研究会である「北海道大学総合技術研究会」を開催しました。

本研究会は、全国の大学、高等専門学校及び大学共同利用機関の技術職員が集い、日常業務で携わっている広範囲な技術的教育研究支援活動について発表する研究会で、2年に一度、全国の国立大学が持ち回りで開催しており、今年度初めて本学において開催されました。

初日は、本学の三上 隆理事・副学長の挨拶に引き続き、特別講演として、

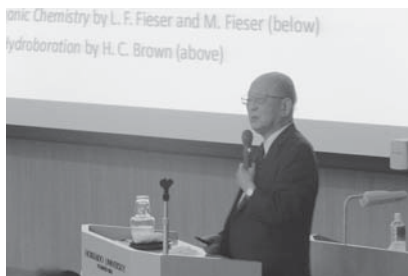
ノーベル化学賞を受賞した、鈴木 章名誉教授による「人類の進歩に役立つ科学の例－有機ホウ素化合物を利用する有機合成－」の講演が行われ、立ち見が出るほどの来場者が熱心に聞き入っていました。講演の後、メイン会場を第1体育館に移し、他大学からの希望者も含めた227名が各技術分野ごとにポスターセッションを行いました。また、2日目には、高等教育推進機構の15の会場に分かれ、178名がそれぞれの専門とする技術の口頭発表を行い、活発な意見交換や多様な分野による技術交流が行われました。

本研究会には、本学関係者160名のほか、全国の大学、大学共同利用機関、高等専門学校、民間企業から約620名、総勢約780名が参加しました。本学において、これだけの人数が集う技術研究会は今回が初めての試みであるにもかかわらず、盛況の中、無事2日間の日程を終了し、参加者は、所属を超えた情報共有、情報提供の場として積極的にこの研究会を活用していました。

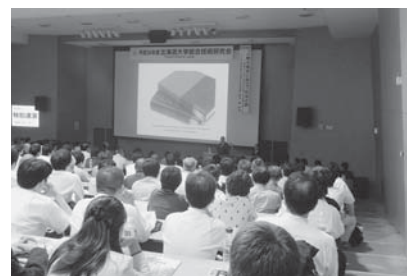
（技術支援本部）



三上理事・副学長による挨拶



鈴木名誉教授による特別講演



ポスターセッション



口頭発表





## 平成26年度国立大学法人等情報化発表会を開催

国立大学法人等情報化連絡協議会の主催により、9月30日（火）・10月1日（水）の2日間、学術交流会館講堂において、本学が当番地区幹事校として平成26年度国立大学法人等情報化発表会を開催しました。

本発表会は、情報化への取り組みについて研究発表を通じ情報共有・情報交換を図ることにより、より一層の情報化推進に資することを目的に毎年開催しています。

発表会1日目は、国立大学法人等情報化連絡協議会の中尾 実会長（岡山大学情報統括センター事務室長）の開会の挨拶の後、文部科学省大臣官房政策課の伊藤元業情報システム企画室長補佐から、bashの脆弱性に係る最新情報の提供と注意喚起がありました。

その後、情報セキュリティに関する取り組み事例や、業務・システムの最適化に関する取り組み事例等、2日間で計16の演題について発表と熱心な質

疑応答が行われました。

また、1日目終了後には、ファカルティハウス「エンレイソウ」において情報交換会を開催し、発表者と参加者の中で活発な意見が交わされました。

なお、発表会には全国から約180名が参加し、情報交換会には約80名の参加がありました。

（情報環境推進本部情報推進課）



挨拶をする中尾会長



挨拶をする伊藤室長補佐



会場の様子

## イノベーション・ジャパン2014に出展

9月11日（木）・12日（金）の2日間、独立行政法人科学技術振興機構（JST）及び独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が主催となり、イノベーション・ジャパン2014が東京ビッグサイトにて開催されました。

イノベーション・ジャパンは、大学の研究シーズと産業界の技術ニーズを結びつける国内最大のマッチングイベント

であり、今回で11回目の開催となります。500件を超える大学等の研究成果が一同に集結し、「情報通信」「ライフサイエンス」「医療」「装置・デバイス」「ナノテクノロジー」「環境保全・浄化」「低炭素・エネルギー」「マテリアル・リサイクル」「シニアライフ（高齢社会）」「防災」「その他」の11分野に分けて展示されました。

主催者発表によると、期間中の来場者は23,000人程度となり、各ブースとも企業関係者や研究機関関係者が数多く訪れ、展示内容について熱心に質問し、意見交換を行いました。終日、人の流れは途切れることなく、本学の最先端の研究成果を産業界に広くアピールできた2日間でした。

（研究推進部産学連携課）

### 本学出展の3テーマ

- ・ 情報科学研究科 教授 小笠原悟司  
【低炭素・エネルギー】「EVシティ通勤のためのフェライト磁石を用いたインホイールモータ」
- ・ 工学研究院 教授 船水尚行  
【環境保全・浄化】「価値を創出するサニテーション：ビジネスモデルとその技術」
- ・ 工学研究院 教授／フロンティア化学教育研究センター長 大熊 毅  
【ナノ・マテリアル】「医薬中間体「光学活性アルコール」の実用的製法」



説明を行う小笠原教授



船水教授のブースの様子



プレゼンを行う大熊教授

## 利益相反セミナーを開催



講演に聞き入る参加者

9月16日（火）、学術交流会館第1会議室において「利益相反セミナー」を開催しました。利益相反を対象とした全学的なセミナーは今回が初めての開催となります。

冒頭で本学利益相反審査会会長である安田和則理事・副学長から挨拶があった後、「産学官連携における利益相反の考え方～大学の利益相反マネジメント」と題して、新日本有限責任監査法人の公認会計士である江戸川泰路氏から、利益相反マネジメントの目的、

方法及び留意点などについて、実際にあった事例をもとに、最近の利益相反に関するトピックを交えて講演いただきました。

講演の中では、大学における責任と産学官連携活動による利益や責任とが衝突する「利益相反」は、日常的に起こることであって、決して回避するものではなく、大学として適切なマネジメントを行うことが必要であり、それが大学として相応しい社会的信頼の確保につながるといった説明がありました。



安田理事・副学長による挨拶



新日本有限責任監査法人 江戸川氏による講演

会場に集まった約100名の参加者は熱心に講演に耳を傾け、利益相反マネジメントについての理解を深めました。

（研究推進部産学連携課）

## 「生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭」を挙

創成研究機構では、9月24日（水）午後1時30分から、生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設において、創薬・機能性食素材の研究開発・事業化の礎として実験に供せられたマウス、ラット、ウサギの慰霊祭を執り行いました。

慰霊祭には同施設で研究を行っている教職員、大学院生等約50人が参列しました。

はじめに幸田敏明生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター長から、動物実験は、尊い命を犠牲にし

ていることを常に念頭に置いて実施していただきたい旨の挨拶があり、その後、参列者全員による黙祷並びに献花が行われ、終わりに小布施力史先端生命科学研究院教授から、医学・生命科学の研究のために捧げられた動物に対する慰霊の言葉が述べられました。

参列者全員が生命の尊厳、倫理観について考える機会となり、厳粛のうちに慰霊祭を終了しました。

（研究推進部外部資金戦略課）



挨拶を述べる幸田センター長



参列者による献花



# リサーチ・アドミニストレーター（URA）の全国大会を開催 ～500名を超すURAが議論

9月17日（水）・18日（木）の2日間、「第4回URAシンポジウム・第6回RA研究会合同大会」を本学にて開催しました。全国から、参加機関125機関、参加者510名が学術交流会館に会し、これまでの活動の成果を報告し、今後のURAのあり方について議論を行いました。学術交流会館大講堂の定員300人を超える参加者に来学いただき、開会式と閉会式では、大講堂の様子を小講堂とロビーに中継しての実施となりました。

「リサーチ・アドミニストレーター（URA）を育成・確保するシステムの整備」（URA事業）は平成23年度から、本学をはじめ15大学で、大学全体の研究推進を担う人材の育成・確保を目指して始まりましたが、現在では、研究大学強化促進事業など新たに文部科学省から公募される事業でも雇用が進み、全国の大学・研究機関に広がっています。

プログラムは、基調講演として文部科学省科学技術・学術政策局の川上伸昭局長に科学技術イノベーションの推進についてご講演いただいた後、20の口頭発表セッション、81のポスター発表と、多様な議論の場を設けましたが、廊下まで立ち見の参加者が溢れる

口頭セッションも数多く、改めて全国に広がるURA事業の拡がりを実感しました。

URA事業最終年度である今年度の本大会は、15大学を代表して本学が大会実施主幹校となり、本学URAステーションが中心に、「次に繋がる仕組みづくり」をテーマに準備を進めてきました。

特に本学企画セッションとして行ったワークショップ「URAシンポジウム全体討論」では、事前にランチセッションとして、参加者に6名ほどのグループに分かれて自己紹介やアイスブレイクを行っていただき、その後の全体討論をグループでの密な議論、各部屋での議論のシェア、閉会式での各部屋の議論のシェアへと繋げる工夫をし、短い時間、手狭な会場での「大討論」を実現しました。また、このワークショップでは、平成25年度大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業の補助金でURAステーションが開発した「北大型イノベーション対話」の手法を活用し、参加者からは、有意義な情報を得るとともに、組織を超えた人脈ネットワーク作りができたという感想が寄せられました。

また、他大学のURAの皆様から、

「ホスピタリティーが最高だった」「北大のチームワークが素晴らしい」「北大URAで働きたい」とのお褒めの言葉をいただいたことが、何より嬉しく、URAステーションにとって今後の励みとなりました。

2日間のプログラムや口頭セッションで用いられたスライド、ポスターは、大会Webサイトで公開しています。

URAとはどういう仕事をするのか、何を目指しているのか、URAで大学や研究環境はどう変わっていくのか、ご関心のある方は、ぜひご覧ください。

最後に、運営にご協力いただきました皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

#### ◆問い合わせ先

創成研究機構URAステーション  
第4回URAシンポジウム・第6回RA研究会合同大会  
事務局長 江端新吾  
E-mail: 4thura\_6thra@cris.hokudai.ac.jp  
URL: [http://mvs.cris.hokudai.ac.jp/ura\\_sympo/](http://mvs.cris.hokudai.ac.jp/ura_sympo/)

（創成研究機構）

\*URAステーションは、平成24年10月に本学に誕生した組織で、全学の研究戦略の立案、外部への情報発信、大型研究企画の支援などを担当する部署です。



URAスタッフがTシャツでお出迎え



各会場は大盛況



雨天につき室内で「ランチピクニック」



懇親会：川端理事・副学長の発声で乾杯！

# 札幌国際芸術祭2014連携事業「北大アーティストカフェ」を実施

9月の毎週木曜日、4回シリーズで、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）において、「北大アーティストカフェ」を実施しました。

「北大アーティストカフェ」は「札幌国際芸術祭2014」の連携事業として、本学からも芸術的なイベントを発信し、新たな層にも本学の研究の魅力を伝えようと、創成研究機構の主催、CoSTEPの共催、立命館慶祥中学校・高等学校SSH事務局の協力で実現したものです。

第1夜は、情報科学研究科の小野哲雄教授が「ロボットの中のヒト～人間らしさを組み立てる～」をテーマに講演し、コミュニケーションロボットの

Robovieも登場し会場を沸かせました。第2夜は、理学研究院の羽部朝男教授による「セカイのはじまり～宇宙のカタチを描く～」が実施され、銀河創世期のシミュレーション動画に参加者が見入りました。第3夜は、理学研究院の相馬雅代准教授による「愛を歌い踊る～鳥たちのメッセージ～」がテーマのカフェで、鳥たちの動画に会場から笑顔がこぼれました。第4夜は、低温科学研究所の杉山 慎准教授が「いちめんのひょうが～南極で氷河の底をのぞく～」をテーマに講演し、南極の水や防寒服に触れるなど参加者体験型のイベントとなりました。

各回とも60名以上の参加者があり、

延べ約250名の市民に、本学の多彩な研究を伝える良い機会となりました。参加者アンケート結果では、本学のイベントに初めて参加する方が半数を超え、また、本イベントに「満足」、「まあ満足」とご回答いただいた方が約8割で、「普段聞く機会のない話を聞けてよかった」「北大の研究の話を市民に開放する活動を続けてほしい」などのご感想をいただきました。

創成研究機構では、いただいたご意見をもとに、今後も市民の皆様と研究者が触れ合える新たな機会を提供していきたいと考えています。

(創成研究機構)



第1夜「ロボットの中のヒト～人間らしさを組み立てる～」



第2夜「セカイのはじまり～宇宙のカタチを描く～」



第3夜「愛を歌い踊る～鳥たちのメッセージ～」



第4夜「いちめんのひょうが～南極で氷河の底をのぞく～」

## 研究者のためのスキルアップセミナー②「伝わるデザインの法則：外部資金申請のためのレイアウトとデザイン」を開催

10月1日（水）、人文・社会科学総合教育研究棟において「研究者のためのスキルアップセミナー②『伝わるデザインの法則：外部資金申請のためのレイアウトとデザイン』」を開催しました。

当セミナーは、大学力強化推進本部と創成研究機構が、研究大学強化促進事業の一環として、研究者が成果等を社会に発信する際に必要となるスキルの向上のために、昨年度より実施している「研究者のためのスキルアップセミナー」の第2弾として実施しました。

今回は、特に、科学研究費等の研究助成の申請書や研究成果の報告書などを、読みやすく伝わりやすくするための図表表現・レイアウトについて学んでもらおうと企画し、東北大学学際科学フロンティア研究所の高橋佑磨助教に「伝わるデザインの法則：外部資金

申請のためのレイアウトとデザイン」と題してご講演いただきました。

講演の後には、参加者から提供された実際の申請書やポスター、プレゼン資料などを用いたBefore Afterの実例演習を行い、会場からは時間が足りなくなるほどの活発な質問・意見がありました。

教職員・大学院生を中心に92名の参加があり、参加者アンケートでは8割の方が当セミナーに「満足」と回答しました。また、今後のセミナーの課題についてのご意見も多く、研究者向けスキル向上セミナーへの関心の高さがうかがえました。

今後も当セミナーの定期的・継続的な開催を検討していきます。

（創成研究機構）



高橋氏による講演



会場の様子

## 函館・札幌の若手研究者を中心とした情報交換及び学際・地域間共同研究マッチング「函館研究交流会」を開催



研究交流会に参加した方々

創成研究機構研究人材育成推進室（L-Station）と人材育成本部女性研究者支援室は、9月13日（土）午後1時30分から、函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、函館・札幌の若手研究者を中心とした学術交流会

（函館研究交流会）を開催しました。

本企画は、札幌キャンパスで定期的で開催している「テニュアトラック交流会」を函館でも行いたいということで企画されました。両キャンパスの研究者に加え、本学の「女性研究者研究



研究交流会の様子

活動支援事業「拠点型」連携機関であるはこだて未来大学や函館高等専門学校の女性研究者、水産科学研究院生も参加し、幅広い12の研究分野の最新トピックスの講演を通じて、総勢50名が活発な情報交換を行いました。本交流会をきっかけに、地域間共同研究が一層活発になることを期待しています。

（人材育成本部、創成研究機構）



## 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで 第23回「赤い糸会&緑の会」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、9月26日（金）に学术交流会館にて第23回「赤い糸会&緑の会」を開催しました。

本会は、企業と若手研究者（DC、PD）との直接情報交換会であり、企業には若手研究者の高い専門性や総合力を理解いただき、若手研究者には企業の研究開発活動や企業における博士の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化、活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で「赤い糸会&緑の会」は通算23回目の開催となり、若手研究者の参加も回を重ねるにつれ増加し、総合化学学院、理学院、生命科学院、農学院、農学研究院、工学院、環境科学院、医学研究科、水産科学院から33名（DC：31名、PD：2名）の若手研究者が参加しました。また企業からも、化学、鉄鋼、食品、繊維、機械、電気、建設、精密機器、重工等の各種業

界から16社（34名）にご参加いただきました。

本会では、冒頭の人材育成本部長の望月恒子教授による開会挨拶、赤い糸会担当の樋口直樹特任教授による趣旨説明の後、参加企業の皆様から業界動向や博士の活躍状況等の紹介が行われ、その後、若手研究者の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。

さらにはこの「赤い糸会&緑の会」を通じて企業に就職した若手研究者の先輩方3名が今回の企業説明会に参加し、後輩達に対して熱い思いを語ってくれました。

開催後の企業側のコメントからも、「年々レベルが上昇している」「運営が洗練されている」との声をいただくことができました。また参加した若手研究者からは、「多くの企業と接点を持つことができ、大変有意義であった」「インターンシップへ繋がりそう

だ」といった嬉しい声も聞かれました。

次回12月9日（火）の第24回「赤い糸会&緑の会」にも、すでに定足の16社のエントリーが確定しており、平成27年2月18日（水）には東京での開催も予定しています。

終わりに、人材育成本部では以上の活動に加えて、企業研究所視察、Advanced COSA、J-window、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、また企業での長期インターンシップ等を通して、これまで以上に若手研究者の実践力を高めることへ注力していきますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、興味のある方は人材育成本部のホームページをぜひご覧ください。

◆ <http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



望月人材育成本部長の開会挨拶



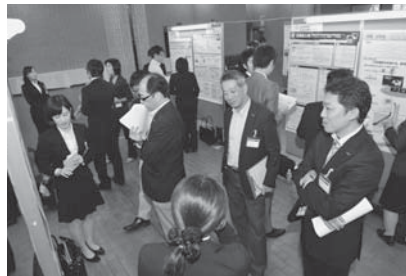
樋口人材育成本部特任教授の趣旨説明



企業からの業界動向説明



説明に聞き入る若手研究者



若手研究者のポスター発表



企業との個別情報交換

## 北キャンパスで合同消防訓練を実施

北キャンパスでは9月9日（火）午前11時より、創成研究機構、電子科学研究研究所、触媒化学研究センター、次世代ポストゲノム研究センター、人獣共通感染症リサーチセンター、シオノギ創薬イノベーションセンター合同の消防訓練を実施しました。

当日は雨模様の天候のなか、札幌市北消防署の立ち会いのもと、500名を超える学生・教職員等の参加がありました。訓練は、北キャンパス総合研究棟5号館2階からの出火を想定した自衛消防隊による通報連絡、避難誘導、初期消火等の各訓練に併せて、学生・教職員等による一次避難場所、最終避

難集合場所への避難訓練等、防災行動の能率・統制的推進と防災意識の高揚を図ることを目的に行われました。

訓練終了後、札幌市北消防署員より火災発見者による速やかな初期消火の重要性と近年の札幌市における火災発生状況についての講話があり、また、自衛消防隊本部長の川端和重創成研究機構長から訓練参加者及び協力者への慰労の辞と、今回の訓練での諸問題をフィードバックし実際の火災に生かすことの重要性について講評があり、一連の訓練を終了しました。

（研究推進部外部資金戦略課）



初期消火の様子



避難の報告をする参加者

## ■ 部局ニュース

# 法学研究科が台湾法官学院（台湾）との部局間交流協定を締結



協定書にサインする亘理研究科長と呂太郎院長



調印後の記念撮影

法学研究科では、9月26日（金）に台湾法官学院（台湾）との部局間交流協定を締結しました。ファカルティハウス「エンレイソウ」で行われた調印式には、台湾法官学院からは呂太郎院長、林晏如法官及び楊思璇法官の3名が、本研究科からは亘理 格研究科長をはじめ3名が出席しました。また、ご来賓として、駐日台北経済文化代表処から陳桎宏札幌分処長をはじめ2名が出席していただきました。

台湾法官学院は、2001年に「司法院

司法人員研習所」として設立され、2013年に新しい法官法の施行に対応するために、組織再編を経て現在の名称に改められました。現在は現職裁判官の再研修と訓練を行うと同時に、独立して研究活動を展開しており、国内外の学術機関や司法機関との交流活動を積極的に推進しています。

調印式後は、札幌地方裁判所の奥田正昭地方裁判所所長を表敬訪問し、その後、札幌地方裁判所の4名の裁判官との懇談会では、裁判官の養成・研

修、裁判員裁判手続きや実際の訴訟運営上の問題等を含む裁判所の現状に関する活発な意見交換が行われました。また、裁判員裁判用法廷や通常の法廷の見学も行われました。

この部局間交流協定に基づき、両機関の交流が活発に行われることを期待しています。台湾法官学院からは、本研究科に客員研究員として裁判官が派遣される予定です。

（法学研究科・法学部）

# 農学研究院・農学院・農学部、北方生物圏フィールド科学センターが札幌市円山動物園と包括連携協定を締結



協定締結後の記念撮影

9月5日（金）に、農学研究院・農学院・農学部、北方生物圏フィールド科学センター、札幌市円山動物園の三者で包括連携協定を結びました。当日は、円山動物園で締結式が執り行われ、丸谷知己農学研究院長、本村泰三

北方生物圏フィールド科学センター長、田中俊成円山動物園長が協定書にサインをしました。

協定は、包括的な連携のもと、学術・教育・文化及び地域の振興発展に関する各分野の協力関係を深め、互い

の発展と充実に寄与することを目的としています。

今後は、大学による研究成果を飼育に反映させ、種の保存につなげていくほか、教員が同園で動物にまつわる市民講座を開くなど、来園者が楽しめるような催しも検討していきます。

締結式当日は、円山動物園のマスコットキャラクター「マルヤマン」とフクロウの「フクちゃん」も加わり、園内での記念撮影も行いました。来園していた子ども達も笑顔で見守ってくれていました。

（農学研究院・農学院・農学部、北方生物圏フィールド科学センター）



## 経済学研究科がエズラ・F・ヴォーゲル氏を招き「北海道大学特別講演会」を開催

経済学研究科は在札幌米国総領事館・法学研究科高等法政教育研究センターと共催で、9月20日（土）午後3時から人文・社会科学総合教育研究棟W203において、ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル氏による講演会「日中関係をアメリカの視点から語る」を開催しました。同氏はアメリカを代表する東アジア研究の泰斗です。

講演には夏休みにも関わらず、120名を超す学生や教職員、一般の方が集

まりました。上田一郎理事・副学長とジョエレン・ゴーク主席理事の挨拶、鈴木賢センター長の司会、高井哲彦准教授の進行で会は開始しました。

ヴォーゲル氏は、名著『ジャパン・アズ・ナンバーワン』時代の日本と、近著『鄧小平時代』前夜の中国がいかに関交を樹立し発展させてきたか、その歴史的背景を論じました。その後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、現代の日中関係の悪化や、日中のメディアの役割、政治の方向性、アメリ

カの立場まで、議論は多方面にわたりました。

また、同氏は難しい質問にも「私は学者であり易者でない」などと言葉遊びを挟みつつ、すべて日本語で丁寧かつ真摯に答えられました。講演終了時には、同氏の学識と誠実な人柄に大きな拍手が送られました。

（経済学研究科・経済学部）



講演するヴォーゲル氏



質疑応答の様子

## 理学研究院附属地震火山研究センターで第8回北太平洋沈み込み帯国際ワークショップを開催

理学研究院附属地震火山研究センターでは、第8回北太平洋沈み込み帯国際ワークショップを9月22日（月）から26日（金）まで開催しました。

この会議は、地震や津波、火山噴火が頻発する北太平洋地域での国際共同研究とその成果の防災への活用を目指して、本学、アラスカ大学フェアバンクス校、ロシア科学アカデミーカムチャツカ火山学地震学研究所の持ち回りで2年ごとに開催されています。

会議には、外国からの37名を含め、気象庁や北海道庁など国内外から100名の参加者があり、研究成果や防災に

関する研究発表や各国からの状況報告などが行われました。また、旭岳で巡検が実施され、火山活動に関する現地

検討や避難体制に関する議論が行われました。

（理学院・理学研究院・理学部）



大雪山系旭岳で実施された火山活動に関する巡検

## 国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院で今年度2回目の「TLLPスタディ・ウィーク(9月セッション)」を開催



レセプション集合写真

国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院では，イギリスのシェフィールド大学・リーズ大学東アジアセンターとの教育・研究交流プロジェクトの一環として，今年度2回目の「TLLPスタディ・ウィーク(9月セッション)」を9月2日(火)～5日(金)の4日間にわたり開催しました。イギリスからはキャロライン・ローズ教授，トーマス・マッコリー助教授及び9名の大学院生が本学院を訪れ，関連するセッションに参加しました。TLLPとはTandem Language Learning Projectの略称で，目的は，①国際的な研究交流及び研究ネットワークの構築，②研究遂行のためのアカデミックな言語スキルの獲得にあります。オンラインを介するプログラムと並び，相互に相手の大学を直接訪問して研究発表や教育交

流を行う機会を「TLLPスタディ・ウィーク」として，年に1～2回ほど企画しています。

今回の9月セッションでは，主たるプログラムとして，①日英両教員の講演会(イギリスからはローズ教授，マッコリー助教授，本学からは奥 聡准教授，山村高淑教授)，②TLLPプログラム院生の成果発表会と個別指導(国際広報メディア・観光学院生2名，シェフィールド及びリーズ大学院生2名)，③学生研究発表会(国際広報メディア・観光学院生7名，シェフィールド及びリーズ大学院生7名発表)，④ラウンド・テーブル(談話会形式ディスカッション)(題目「研究成果の公開と出版を巡って」，日英教員パネリスト6名)を開催しました。

それぞれの催しには，本学院生，教員等が多数参加し，刺激的な発表や熱



講演会の様子

気のある討議を通じて活発な教育・研究交流が行われました。講演会における，東アジア情勢の分析，伝統様式から現代メディアに至る日本文化の多様性，日英言語構造の同一性と相違等のテーマは，極めて啓発的で聴衆に多大なインパクトを与えるものでした。大学院生の発表も，現代の日英の社会や文化の特徴を多角的に鋭く分析するもので，相互に大きな刺激となりました。また，研究成果の公開や出版を巡るディスカッションは，前回の7月セッションとも関連し，これから国際的研究者を目指す大学院生にとって，大変意義深いものとなりました。

(国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院)



# 水産科学院が第4回国際サマーコースを開催



集合写真

8月31日（日）から9月7日（日）まで、函館市において「第4回持続的海洋・漁業科学国際サマーコース in Hakodate 2014」が開催され、イカ資源・漁業・利用と題して、函館市の魚でもあるイカを中心に英語による講義・グループワークが行われました。今回はサステナビリティ学教育研究センターの主催するECOSUSとの共同開催で、ECOSUSとして、医学研究科1名、環境科学院3名、水産学部から4名、並びに大学間交流協定を締結している上海海洋大学（中国）から12名が参加しました。

講義では、イカの専門家である独立行政法人水産総合研究センター東北区

水産研究所の酒井光夫先生をお招きし、イカの生態と資源管理についてお話いただきました。水産科学研究院の川合祐史教授、関秀司教授、高橋是太郎教授はイカの加工利用について紹介し、イカの生態学の研究者であり、上海海洋大学の学生を引率してきた劉必林先生は、中国のイカ資源についてお話をされました。

また、イカ釣り機メーカーの株式会社東和電機製作所、塩辛加工の株式会社布目、定置網漁業の久二野村水産株式会社（白尻）、函館市水産物地方卸売市場を訪問し、イカの漁業から流通、加工を実際に見学しました。さらに、白尻水産実験所ではバウア・ジョ

ン・リチャード准教授の指導でイカの解剖も行いました。

これらの体験と知識を学生が自分たちの観点からまとめ、最終日のグループプレゼンテーションでは熱のこもったディスカッションが繰り広げられました。その後、活イカ刺身の実食や函館山頂上からの漁火見学等も行い、日中学生の交流が図られました。

このコースは、水産科学院の中期目標・中期計画に基づき、平成23年度から開催しているものであり、函館市と上海で交互に開催しています。来年度以降も継続して実施する予定です。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



熱心に話を聞く参加者



網元による定置網の説明



東和電機製作所見学



「社長の塩辛」で有名な布目の社長と



活イカのせり



## 平成26年度水産学部公開講座 「最近の海の環境変化と水産資源」が終了

水産学部では、7月5日から9月6日の土曜日のうち全6回にわたり、公開講座「最近の海の環境変化と水産資源」を開講しました。

近年の海水温の上昇が海洋環境に大きな影響を及ぼし、その結果、魚の回遊域や生態系が変化して漁村の生活に変化をもたらし始めています。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）では「人間活動が地球温暖化の最大の原因である」という結論に至っています

が、そう言い切れない部分も残されています。

今年度は、「地球温暖化と水産資源－本当に温暖化に向かっている?」「気候変動とサケ」「最近のサケの資源変動と資源づくり」「漁業と漁村に吹く新風－資源・流通・暮らしの変化－」「『そこうお』の資源量変動」「道南における近年の海洋環境の変化」の題目で、各講師が最新の研究成果を解説・紹介し、延べ235名が受講しまし

た。講義後には活発な質疑応答があり、地球規模の環境変化の予測がいか

に困難であるか、またその影響がいか

に幅広く深いものであるか、水産科学を通じて学びました。

最終日には4回以上出席した30名の受講生に安井 肇水産科学研究院長から修了証書が手渡され、本講座は成功裏に終了しました。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



講義の様子

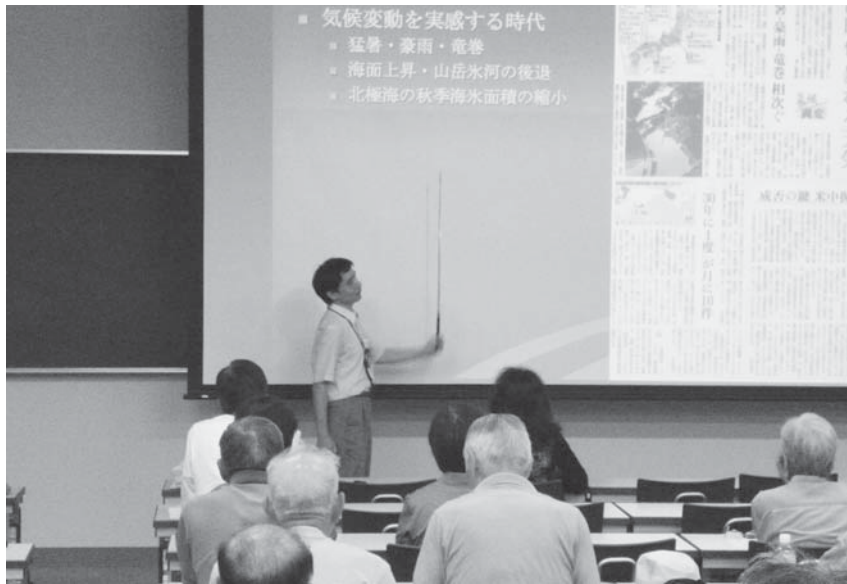


意見交換の様子



修了証書授与

## 平成26年度地球環境科学研究所公開講座 「IPCC第5次評価報告書を読み解く」が終了



長谷部文雄教授による講義（第1回）

地球環境科学研究所では、平成26年度公開講座「IPCC第5次評価報告書を読み解く」を8月20日（水）から9月24日（水）まで全6回開講し、20代から80代までの市民66人が受講しました。

科学的知見の集大成を通して社会的

合意形成を目指す国際的枠組みとして気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が設立されたのは1988年でした。IPCCによる第5次評価報告書（AR5）公表に合わせて開講された本公開講座では、AR5執筆者を含む6人の講師がその概要を分かりやすく説明

し、受講者からも非常に好評のうちに終了しました。

最終回の講義終了後、全6回の講義のうち4回以上出席した62人の受講者に修了証書が授与されました。

（環境科学院・地球環境科学研究所）

## 医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では、9月30日（火）午後1時30分から、クラーク会館講堂において、この1年間に系統解剖、病理解剖及び法医解剖のため、本学に尊い御遺体を捧げられ、その御遺体を通して病因・病態の究明に、あるいは人体構造機能の理解に、貴重な御教示を遺された255名の御霊の御冥福をお祈りするため、慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、御遺族、総長、理事・部局長、教職員、学生、学外関係者等約370名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後、参列者全員による黙祷を行い、次いで、笠原正典医学部長及び横山敦郎歯学部長から、御霊の御意志に報いるためにも一層の教育・研究・診療の発展に努めたい旨の追悼の辞がありました。その後、参列者による献花を行い、最後に横山歯学部長から謝辞があり、慰霊式は厳粛のうちに終了しました。

（医学研究科・医学部、歯学研究科・歯学部）



追悼の辞を述べる笠原医学部長



追悼の辞を述べる横山歯学部長



献花をする山口佳三総長



謝辞を述べる横山歯学部長

## 動物慰霊式を挙行

### 医学研究科附属動物実験施設

医学研究科附属動物実験施設では、9月19日（金）午後4時から、平成26年度動物慰霊式を医学部学生会館「フラテ」ホールにおいて執り行いました。今年度の慰霊式は、附属動物実験施設改修完成後はじめての慰霊式となりました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学

の教育研究のために多数の動物の尊い生命が犠牲になっていることを厳粛に受け止め、動物の霊を追悼するとともに、生命の尊厳と倫理について啓発することを目的に実施しているもので、教職員、学生等約120人が参列しました。

はじめに有川二郎施設長が追悼の辞

を述べた後、笠原正典研究科長の挨拶、参列者全員による黙祷・献花を行いました。最後に有川施設長から適正な動物実験の実施について、一層の理解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（医学研究科・医学部）



挨拶を述べる笠原研究科長



参列者による献花



挨拶を述べる有川施設長



獣医学研究科

獣医学研究科では、10月3日（金）午前11時から、獣医学研究科講堂において、動物慰霊式を執り行いました。慰霊式は研究・教育のために提供された動物や附属動物病院で治療の甲斐なく死亡した動物の御霊に対し追悼の意を表するとともに、獣医学発展の陰に

多数の動物の尊い生命が犠牲にあることを厳粛に受け止め、生命への畏敬と倫理的責任感を啓発することを目的としたもので、教職員、学部・大学院生のほか、飼い主等約250人が参列しました。

はじめに、動物の御霊に対して黙禱

を捧げた後、稲葉 睦研究科長の式辞、参列者による献花、滝口満喜附属動物病院長による講話が行われ、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（獣医学研究科・獣医学部）



式辞を述べる稲葉研究科長



献花する参列者

遺伝子病制御研究所附属動物実験施設

遺伝子病制御研究所では、9月18日（木）午後2時から遺伝子病制御研究所セミナー室において、昨年9月から1年間に学術研究の礎として実験に供せられた動物の御霊を慰霊するため、動物慰霊式を執り行いました。

慰霊式には研究所教職員、大学院生・学生等関係者が多数参列し、はじめに、高岡晃教研究所長から追悼の辞

とともに、生命の尊さを常に考え、動物福祉に一層配慮した研究態勢を考えていくことを願う旨の挨拶がありました。引き続き、参列者全員による黙とう、研究分野等代表者による献花が行われ、最後に、清野研一郎動物実験施設長から追悼の辞とともに、今後とも諸法令を遵守し、適切な動物実験の実施について、理解と協力を願う旨の挨拶

がありました。

この動物慰霊式を通して、参列者全員が生命の尊厳、倫理観について改めて認識し、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（遺伝子病制御研究所）



献花を行う高岡所長



挨拶を述べる清野動物実験施設長

# 北方生物圏フィールド科学センターで「第1回森林フィールド講座・和歌山編 熊野の森の楽しみ方」を開催

北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーションは、平成24年7月に、文部科学省教育関係共同利用拠点（「フィールドを使った森林環境と生態系保全に関する実践的教育共同利用拠点」）に認定されました。この事業の目標の1つに、他大学演習林（山形大学・筑波大学・信州大学・高知大学・琉球大学）と連携ネットワークを結び、広域かつ多様な森林をカバーした教育プログラムの提供を掲げています。その取り組みの一環として、5大学と連携し、大学や学部・学年を問わず学生が参加できる合同実習「森林フィールド講座」を9月15日（月・祝）～19日（金）に開催しました。

開催地は、北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林で、全国から18名の学生が参加しました。実習では、南紀熊野地方の森林の特徴とそれを活用するための林業技術、地元集落の暮らしなどについて学ぶことを目的としました。基本的には、(1)フィールドで自然を学ぶパート、(2)林業を体験するパート、(3)地元集落の暮らしについて学ぶパートの3つの要素を組み合わせ、その成果をグループワークに結びつけました。連携大学からも多くの教職員が参加し、夕食後の時間に各大学の演習林や研究を紹介しました。

フィールドで自然を学ぶパートでは、夜に散策しながらコウモリの声（超音波）を確認する調査、野生動物をトラッキングするための電波発信機を使用したフォックスハンティング、登山しながらの照葉樹林の観察、土壌や溪流の川底にいる生き物探し、森林内に建てられた高さ20mのジャングルジムに登っての高木の枝の調査など、

様々なことを学びました。

林業を体験するパートでは、人工林の除伐・枝打ち・樹皮剥きなどの製材体験を行いました。除伐はチェーンソーを使わずのこぎりのみで行いましたが、作業の大変さや倒れる木のダイナミックさから「最も印象に残った実習メニュー」として挙げる学生が多数いました。

地元集落の暮らしについて学ぶパートでは、和歌山研究林のある平井集落の散策、特産品のゆずを使ったマーマレード作り、炭の製造工程体験を行いました。完成した炭は、性能実験も兼ねバーベキューに使用しました。

また、夕食後にはアカデミックワールドとして、連携大学教職員による研究紹介や演習林紹介を行い、フィールド研究や全国各地の森林植生及び特色について学びました。

最後にグループワークとして、班ごとにプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは「私を熊野に連れてって」というタイトルで、自分の親しい人を熊野へ連れ出すために説得するという課題であり、各班とも寸劇を交えながらユーモラスな発表を行い、大いに盛り上がり、教職員にも好評でした。

参加学生のアンケートには、「全国の大学生との交流により価値観が広がった」「この経験により森林に関わる進路を選択したくなった」「期待以上の実習だった」など好意的な回答が数多く寄せられ、本講座は盛況のうちに終了しました。

なお、本講座は連携大学との合同で、毎年開催地を移動して行う実習シリーズです。来年度は琉球大学与那フィールドにて、全国大学演習林協議

会による「公開森林実習」と同時開催の予定です。来年夏頃の開催を検討していますので、興味がある方は当事業のホームページをご覧ください。

◆ <http://forest.fsc.hokudai.ac.jp/~kyoten/>

(北方生物圏フィールド科学センター)



和歌山研究林最高峰の大森山を登山



除伐（木の間引き）



釜から炭を取り出す



課題「私を熊野に連れてって」発表の光景

## 平成26年度文学研究科FD研修会を開催



講演を行う宮内教授

文学研究科・文学部では、教員資質向上・授業改善などを目的として、随時、FD研修会を行っています。

今年度は「授業内容の改善」というテーマを設定し、先進的な取り組みをされている先生にお話いただき、その一助とすることができればという方針で企画を行いました。そこで、平成24年度に教育総長賞を受賞した本研究科地域システム科学講座の宮内泰介教授を講師として、9月3日（水）、午後1時45分から午後2時30分まで、人文・社会科学総合教育研究棟W409室において、「ピア・ラーニングを生かした授業の組み立て方」と題した講演を行いました。

講師の宮内教授は、環境社会学、また、それにかかわるガバナンス論等で学会をリードする研究者であると同時に、非常に優れた教育者としても知ら

れた存在です。今回の演題にもなっているピア・ラーニング（学生同士での学び合い）について、『グループ・ディスカッションで学ぶ社会学トレーニング』という、極めて実践的な著書を昨年出版されたばかりだったこともあり、今回はこうした日頃の取り組み、工夫についてぜひ研究科内で共有したいと考え、研修の講師をお願いしました。

当日の研修会では、宮内教授が全学講義と学部ゼミで実際に利用している教材を示し、グループ・ディスカッションのテーマの提示から実際のディスカッションを経て全体で共有するまでの流れを授業中にどう構築するのか、極めて具体的に紹介しました。「学生同士が互いの力を発揮し共同で学ぶ」授業実現のためになされる、ディスカッション・テーマの工夫、作業への指示の明確化やワークシートの

デザイン、さらには適切なグループ人数や教室のデザインにまで至る授業のきめ細やかな設計は、大変参考になりました。宮内教授は、ディスカッションも単調にならないよう、「答えを出す」「議論を深める」「アイデアを出す」などトピックに合った適切な目標設定をすることが重要だと話し、宮内教授が長年蓄積してきた様々な工夫を知ることができました。

教職員約50名の参加があり、議論の評価方法や宿題の出し方などについて、活発な質疑応答がありました。本研究科・学部では、今後もこのような研修会を開催し、それを通してより良い教育研究環境の形成を目指したいと考えています。

（文学研究科・文学部）



## 生命科学院でFD研修 ～学生指導と教育環境 「変わる就活期間，留学生支援」～を開催

生命科学院では、9月18日（木）に理学部大講堂において、FD研修～学生指導と教育環境「変わる就活期間，留学生支援」～を開催しました。今回は生命科学院2専攻3コースの教育担当教員を対象とし、46名が参加しました。

教育担当教員は、研究室に配属した学生に対し専門研究指導を行うだけではなく、社会情勢の変化をふまえた学生の育成という教育的観点から、卒業・修了後の進路指導・就職活動支援を行う教育環境づくりも求められます。そこで、今回の研修では、キャリアセンターと人材育成本部から講師を招き、就職活動支援並びにキャリアパス教育の最新の活動内容について説明をいただき、学生への進路指導のあり方について学ぶ機会を設けました。

キャリアセンターからは徳山雅一課長が、学部生と修士課程学生に対する就職活動支援（個別相談、資料貸出、セミナーDVD視聴、OB・OG名簿、メールマガジンなど）について、具体的な事例を交えながら説明しました。さらに学部・修士生に適用される「就

職・採用活動時期の後ろ倒し」の新しい協定に対する就職活動スケジュールと学事日程との対応を平成28年3月卒業・修了学生を例に説明しました。参加教員から「就活期間の後ろ倒し変更について良く理解できた。企業側がどのように捉えているのかについても知りたい」、「学事日程や研究の集中力への影響」など制度の理解が進んだ一方で学生指導の難しさへの感想も寄せられました。

人材育成本部からは樋口直樹特任教授が、博士後期課程学生とポスドクに対するキャリアパス支援の活動内容や留学生への支援強化について講演を行いました。学位取得後にアカデミアのみならず民間企業への多様な進路への意識改革を目的としたキャリア実践科目（Advanced COSA, 赤い糸会・緑の会、博士力インターンシップなど）が大学院共通授業科目として提供され、受講学生の民間企業内定率が非常に高いこと、またイベント案内や企業とのマッチングを図る会員制登録システム（Hi-system）への登録数が理系全体でかなり高くなったとの紹介があ

りました。参加教員からは「初期の頃から年々パワーアップして実績が上がっている」、「I-HOPによる留学生相談窓口を強化する体制やHi-systemユーザーへのTOEIC・日本語の無料eラーニングも大変良い」、「我々自身も教員の意識改革について考えていきたい」など多数の感想が寄せられました。

最後に、生命科学院で取り組むこととなった平成26年度文部科学省・博士人材データベースのパイロット運用、及び全国15,000人規模の第1回日本博士人材追跡調査の実施予定について先端生命科学研究院長の出村 誠教授から概要説明がありました。

講演終了後も、充実した本学のDC向けキャリアパス支援体制を学部・修士の早い段階で周知することの意義、留学生への支援状況、教員側の意識の現状などについて意見交換がなされました。今回の研修を通じて、研究室に配属した学生に対する進路指導のあり方を考えるきっかけとなりました。

（生命科学院・先端生命科学研究院）



徳山課長によるキャリアセンターの説明



樋口特任教授による人材育成本部の説明

# 総合博物館で企画展「三岸好太郎と札幌の山—三岸好太郎作《北海道風景（大通公園）》（筑波大学所蔵）をめぐって—」と関連ワークショップを開催

総合博物館では筑波大学芸術系とともに、9月6日（土）から9月28日（日）まで、企画展示「三岸好太郎と札幌の山—三岸好太郎作《北海道風景（大通公園）》をめぐって—」を開催しました。

三岸好太郎（1903～1934）は、詩情あふれる作風と、道化師、貝殻、蝶を描いたことで知られていますが、実景に基づく多くの風景画も残しています。筑波大学が所蔵する油彩画《大通公園（北海道風景）》は、1932年夏から数か月にわたり札幌に滞在した三岸が、精力的に風景画制作に打ち込んだ時期の一枚と考えられます。同作品の題名は、初出の展覧会以降「大通公園」もしくは「北海道風景」と呼ばれるのが慣例化していましたが、筑波大学収蔵後の調査により作品裏面の木枠に見える書き込みや、風景の様々な形象の観察から、本学構内にイーゼルを立てて描かれた可能性が浮上しました。

企画展では、当該作品に描かれた場所を特定するにふさわしい知見の獲得を広く学内外に問うことを目指しました。筑波大学が北海道立三岸好太郎美術館の協力を得ながら調査した成果により、当該作品そのものをはじめ関係する資料を展示した他、画家自身や札幌、本学にゆかりのある専門家や市民の方々にご参加いただくワークショップ「三岸好太郎と北海道大学構内」を開催しました。

展示会場には連日多くの方が来場され、50年ぶりに札幌に戻った作品を熱心にご覧になっていました。9月14日（日）に開催したワークショップでは、4件の講演——「作品《北海道風景》の観察をめぐるいくつかのこと」（寺門臨太郎（筑波大学））、「1920～1930年代、札幌美術瞥見」（地家光二（北海道立三岸好太郎美術館））、「三岸好太郎と札幌」（苦名直子（北海道立文学館））、「三岸好太郎のア

トリエーモダン建築創造のよるこび」（池上重康（北海道大学））の後、三岸が本学構内でイーゼルを立てたのではないかと想定されるポプラ並木北側に講師と参加者が移動し、西の山並みを見ながら議論が交わされました。三岸がどこで描いたのか、何を描きたかったのか。今後、研究が更に進むことが期待されます。

また、本企画は、大学の知的資源としての美術作品を媒体として、大学間の垣根を越えた学術的共同事業であると同時に、美術史、博物館学、歴史学、地理学等にまたがる脱領域的な研究推進事業の試みとして意味づけることができます。

本企画は学内外の多くの方にご協力いただきました。この誌面を借りてお礼申し上げます。

（総合博物館）



「三岸好太郎と札幌の山」展 展示室



ワークショップ「三岸好太郎と北海道大学構内」での講演



講演後の見学会 ポプラ並木北側から西の山を眺めて三岸の制作場所を議論する

## 工学系部局で安全衛生管理講演会を開催

工学系部局では、「工学部安全の日」関連行事として、毎年学外から講師を招いて、安全衛生管理に係るテーマで講演会を開催しています。

本年度は、合同会社メンタルアシスト北海道の職業カウンセラーである石原一人氏を講師に迎え、「メンタルヘルス諸問題の概況とその対応」と題して、9月24日（水）に安全衛生管理講

演会を実施しました。石原講師は、工学系部局なんでも相談室の相談員でもあるため、講演では工学系部局に起こり得る事例など、具体的な対応事例が紹介されました。講演は時間いっぱいまで行われましたが、参加者たちは誰一人途中で席を立つことなく終了しました。

講演終了後にも、教員から学生指導

上での悩ましい質問が出される等、時間が足りなく感じられるほど充実した講演会となりました。参加した教職員・学生たちからは、大変有意義な講演であったとの感想が多く聞かれました。

(工学研究院・工学院・工学部、情報科学研究科)



講演を行う石原カウンセラー



講演に真剣に耳を傾ける参加者



学生指導に係る質問をする参加教員



# 北海道大学病院で災害医療訓練， CBRNE災害対策訓練を実施

北海道大学病院では，9月10日（水），医師や看護師，学生ら約200人が参加し，広域大規模災害の発生を想定した第11回北海道大学病院災害医療訓練を実施しました。

訓練は，札幌近郊で大地震が発生し，エレベーターや一部医療機能が停止した状況で傷病者を受け入れなければならない，という想定で行われました。

まず，傷病者の緊急度や重傷度によって治療や後方搬送の優先順位を決めるトリアージセンターを外来玄関前と外来ホールに設置し，あらかじめ設定した被災状況に応じたメイクを施された100名ほどの模擬被災者を，傷病者の緊急度や重症度による治療や後方搬送の優先順位をトリアージタグと呼ばれる緑色・黄色・赤色・黒色のタグを用いて識別し，それぞれの処置治療センターへ振り分けます。赤タグが

つけられた重症者はアメニティホールに搬送され，担当職員らは声かけをしながら対応の流れを確認しました。前回の訓練からDMATと呼ばれる災害時派遣医療チームも処置治療センター（赤）に配置され，処置治療センター（赤）担当の医師・看護師等と連携を行いました。また，処置治療センター以外にも，医療機器や模擬被災者の搬送，ボランティアの受け入れ，被災者の安否確認対応などの訓練も行われました。

約1時間にわたる訓練は，寶金清博病院長による訓練終了の宣言で幕を閉じました。

また，9月12日（金）には，放射性物質，生化学物質などによる災害やテロの発生を想定したCBRNE（Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, Explosives）災害対策訓練も実施されました。

訓練には約30人が参加し，脱衣テント，除染テント等を設置し，防護服を着用した医師・看護師が，傷病者の到着から汚染の除去，病院内へ搬送するまでの手順を確認しました。

このような，大がかりな訓練を定期的に行うことにより，職員の危機意識が向上し，実際の災害に直面した時に適切な対応が可能となることを期待しています。

（北海道大学病院）



模擬被災者用メイクの様子



1次トリアージセンターの様子



処置治療センター（赤）の様子



講評する寶金病院長

## 附属図書館でインターンシップ・図書館実習を実施

附属図書館では、毎年、インターンシップ及び図書館実習を実施しています。今年度は9月1日（月）から9日（火）まで（土日を除く）の7日間に本学3名と北海道武蔵女子短期大学8名、また、9月1日（月）から9月12日（金）まで（土日を除く）の10日間に筑波大学2名、計13名の実習生を受け入れ実施しました。

北海道大学インターンシップは、学生の職業意識の育成・向上などを目的として就業体験を行うものですが、図書館は、実習生に業務を体験してもらうことで、図書館のことをより深く理解し、その後の学習または研究生活において図書館を有効に活用してもらえよう、また図書館側としても学生の

ニーズを把握するために毎年積極的に受け入れています。

他大学のインターンシップ生及び図書館実習生の受け入れは、学外連携や社会貢献の役割を果たす意味もあり、要請があれば積極的に実施しています。

実習生には、全体オリエンテーションの後、すぐに実習を開始し、図書・雑誌の収集・保存や電子ジャーナルの契約、目録、相互利用業務（他大学との文献複写・貸借）、カウンター業務（図書の貸出・返却）、蔵書点検、機関リポジトリ（HUSCAP）の登録、レファレンス、情報リテラシー業務など、短い期間ではほぼ全ての図書館業務を体験してもらいました。

最終日のプレゼンテーションにおい

て、実習生からは、「図書館のサービスを全然理解していなかった」、「配架作業の難しさを知り、今後は利用する時には気をつけたい」「相互利用サービスは今後の学生生活で大変為になった」などの感想や、「学生への広報をもっと工夫して図書館のサービスを紹介したほうがよい」「メディアコートをもっと有効活用したほうがよい」など図書館への提言がありました。また、他大学生との合同の実習は、お互いに大いに刺激を受けたようで、大変有意義なインターンシップとなりました。

（附属図書館）



職員の説明を熱心に聞く実習生



プレゼンテーションの様子



実習を終えて

## 北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受け入れ

北図書館では、札幌市教育委員会の依頼により、札幌市立高等学校の「職場体験学習」として、8月27日（水）に清田高等学校の2年生3名、9月17日（水）に旭丘高等学校の1年

生3名を受け入れました。当日は、最初にオリエンテーションを行い、附属図書館の沿革や北図書館の課題等を説明し、その後実際に業務を体験してもらいました。

職場体験ではカウンターでの貸出・返却業務をはじめ、本の配架、蔵書点検、本に透明なフィルムカバーを貼るブックカバー掛けなど、多様な業務を経験してもらいました。また、オリエン



カウンター業務の説明を聞く清田高校生



ブックカバーを体験する清田高校生

テーションで説明した北図書館の課題（なかなか返却してくれない利用者への対策など）について、対応策をプレゼンテーションしてもらいました。ここでは、高校生ならではの視点から、実用的な意見や奇抜なアイデアが飛び出し、職員らの刺激にもなりました。

参加した高校生からは「司書の仕事はカウンターに座って利用者が来たら手続きをするだけと思っていたが、カウンター以外に様々な仕事があり想像以上に大変なことがわかった」、「職場体験をして、仕事が楽しく感じたので改めてこの職種に興味を湧いた」、

「初めて図書館での仕事を体験して、普段自分が本を借りたり、返却したりしている裏側では、このような職員の方々の支えがあったのか！と感動しました」などの感想が寄せられました。

(附属図書館)



本の配架を行う旭丘高校生



課題の対応策を発表する旭丘高校生

## ピア・サポートと北図書館による1年生サポート企画 「少年よ、学部を選べ! 2014」を開催

北図書館では、先輩学生が1年生に学部選択の参考となる本の紹介をする企画「少年よ、学部を選べ!」を9月29日(月)～10月3日(金)に、ピア・サポート室と協働で実施しました。

本企画は、先輩学生が自分の所属する学部・学科等での研究に関連する本や、自分が学部を選ぶ時に参考になった本を紹介し、自分の所属する学部の魅力を語ることで1年生の学部選びの参考にしてもらおうというものです。今回は、制作したポスターを使って発

表する機会を設け、学生からの視点で自分たちの学部をアピールしてもらいました。

ピア・サポート室の学生は、広報活動をはじめとして、1年生に本を紹介する先輩学生集め、会場(ピア・サポート室)の準備などに大いに力を発揮してくれました。

実施期間中は、多くの学生がポスター展示会場のピア・サポート室を訪れ先輩学生と熱心に話をしたり、プレゼンテーションの場においては学科の

研究内容や研究室の決め方などについて積極的に質問をしていました。また、北図書館で展示した紹介図書は初日から早速借り出されていました。

先輩が制作したポスターは力作揃いで、1年生が学部移行を決定する来年2月頃まで北図書館2階廊下に掲示します。

(附属図書館)



ポスター展示の様子



プレゼンテーションの様子



## ■お知らせ

### 総合博物館の展示公開を一時休止

総合博物館では、10月より耐震改修工事を実施することとなりました。それに伴い、改修部分に該当する収蔵庫の学術資料等の一時保管場所として、1～2階の展示室の一部を閉鎖します。また、平成27年度からは、正面玄関や外壁の工事及び足場の設置等のため、来館者の安全を十分に確保することが難しくなることから、展示室をすべて閉鎖し、公開を休止します。工事終了後は、展示リニューアルを経て平成28年7月1日より公開を再開する予定ですが、詳細につきましては、決定次第改めてお知らせします。

公開休止中に予定されている各種事業等につきましては、総合博物館ホームページ等でお知らせします。ご不明な点や、詳細につきましては、理学・生命科学事務部事務課 博物館担当（内線：2658）へお問い合わせください。

皆様には多大なご迷惑、ご不便をおかけしますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

#### 展示室公開閉鎖スケジュール

平成26年9月末より閉鎖	展示室	1階南西奥4部屋
平成26年11月上旬より閉鎖	展示室	2階南西奥4部屋
平成27年4月1日より閉鎖	展示室	1・2・3階全室

(総合博物館)

## ■博士学位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士82人、及び本学に学位論文を提出して、その審査、試験等に合格した論文博士14人に対する学位記授与式を、9月25日（木）午前10時から学術交流会館第1会議室において挙行了しました。

式では山口佳三総長から出席者全員に学位記が手渡され、最後は北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)



学位記授与の様子

#### 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（文学）	湯浅恭子 <small>ゆあさ きょうこ</small>	C.S.Lewis and Christian Postmodernism: Word, Image, and Beyond (C.S.ルイスとクリスチャン・ポストモダニズム：ワードとイメージを超える世界) 主査：教授 瀬名波 栄潤

博士 (文学)	ほん ま み き 本 間 美 紀	解離発症に及ぼす心的イメージの影響 主査：特任教授 菱谷 晋介
博士 (法学)	テイ アン ケツ 丁 文 杰	知的財産権・不法行為・自由領域－日韓両国における規範的解釈の試み－ 主査：教授 田村 善之
博士 (医学)	きく ち やす か 菊 池 穂 香	Integrated Morphological and Functional Evaluation of the Heart using MDCT and PET (MDCTとPETを用いた心臓形態および機能の統合的評価) 主査：教授 松居 喜郎
	なか い まさ と 中 井 正 人	Studies on hepatitis C virus infection in human B cells (ヒトB細胞におけるC型肝炎ウイルス感染に関する研究) 主査：教授 笠原 正典
	やま ぎき やす ひろ 山 崎 康 博	STAT1機能獲得型変異による慢性皮膚粘膜カンジダ症の病態解析：2つの新奇ミスセンス変異の同定, サイトカイン産生プロファイル, 抗IL-17F自己抗体 主査：准教授 松本 美佐子
博士 (獣医学)	イ ギョン リ 李 景 利	The role of sika deer in the transmission of <i>Borrelia</i> spp. in Hokkaido, Japan (北海道における <i>Borrelia</i> spp.の伝播に対する鹿の役割) 主査：教授 坪田 敏男
	いけ だ たか こ 池 田 貴 子	Development of the new protocol for habitat modeling of urban red fox to improve <i>Echinococcus multilocularis</i> control strategy (エキノコックス症対策のための都市型アカギツネ生息地モデリング法の開発) 主査：教授 片倉 賢
	ノゼチ グ ル ベ Ngulube チドゥマヨ Chidumayo	Studies on the antigenic characteristics of tick-borne flaviviruses and their application (ダニ媒介性フラビウイルスの抗原性状の解析と応用) 主査：教授 莉和 宏明
	ジュシカ JESCA ナカ イ マ NAKAYIMA	Molecular epidemiological study of protozoan and other zoonotic diseases from two countries in Africa (アフリカ2か国における原虫ならびにその他の人獣共通感染症の分子疫学的研究) 主査：教授 杉本 千尋
	なか むら てっ べい 中 村 鉄 平	Analysis of mast cells in the neonatal ovary of MRL/MpJ mice-unique immune cells participating in early follicular development- (MRL/MpJマウスの新生子期卵巣に出現する肥満細胞の解析－初期卵胞形成に参加する特異な免疫細胞－) 主査：教授 昆 泰寛
	ヤレド YARED ハ イ エ ネ BEYENE ヨハンネス YOHANNES	Levels and Effects of Organochlorine Pesticides and Heavy Metals in Aquatic Ecosystem from the Rift Vally Region, Ethiopia (エチオピア・リフトバレーにおける有機塩素系農薬と重金属による汚染状況の解明と水圏生態系への影響評価) 主査：教授 石塚 真由美
	リン スー イー LIM SUE YEE	Application of contrast-enhanced ultrasonography in diagnosis of canine pancreatic disease (犬の膵疾患の診断における造影超音波検査の応用) 主査：教授 滝口 満喜
博士 (情報科学)	やま うち しょう 山 内 翔	Control of Oscillator Aggregation for Generating Homeostatic Behavior in Autonomous System (自律システムにおける恒常的ふるまいの創発に向けた振動子群制御法) 主査：教授 鈴木 恵二
	リュウ 劉 ハオ 浩	A Study of Efficient and Robust Clustering for Large-Scale Datasets (大規模データセットに対する効率的で信頼性の高いクラスタリングに関する研究) 主査：教授 栗原 正仁
博士 (工学)	く どう まさ き 工 藤 昌 輝	抵抗変化型不揮発メモリセル動作時の内部構造と抵抗変化に関する研究 主査：教授 高橋 庸夫
博士 (情報科学)	ソン 孫 キ 喜 コウ 浩	A Study on Efficient Robust Speech Recognition with Stochastic Dynamic Time Warping (確率的DTWを用いた高効率ロバスト音声認識に関する研究) 主査：教授 宮永 喜一

博士 (工学)	ツ 塗 ジャ ジン 佳 静	A study on heterogeneous trench-assisted single-mode multi-core fiber and few-mode multi-core fiber (異種トレンチ型シングルモードマルチコアファイバとフェューモードマルチコアファイバに関する研究) 主査:教授 齊藤 晋聖
博士 (情報科学)	ロニー テグ Rony Teguh	Study on Monitoring System for Forest Fires Based on Wireless Sensor Networks (センサネットワークを用いた森林火災監視システムに関する研究) 主査:教授 五十嵐 一
博士 (水産科学)	い 藤 伊 靖	人工魚礁における有用魚類の蟄集と増殖機能に関する研究 主査:教授 木村 暢夫
	シン 秦 ギョク セツ 玉 雪	北太平洋生態系におけるサケ属魚類の食性の時空間変異 主査:特任教授 桜井 泰憲
	にし みや おさむ 西 宮 攻	Studies on mechanisms underlying the control of dual vitellogenin gene expressions in inshore hagfish ( <i>Eptatretus burgeri</i> ) (ヌタウナギにおける2種ビテロジェニン遺伝子の発現制御機構に関する研究) 主査:教授 足立 伸次
博士 (環境科学)	エ コ シスウオヨ EKO SISWOYO	Development of low-cost adsorbents based on solid waste materials to remove heavy metal ions in water (水中の重金属イオンの除去のための固形廃棄物に基づく安価な吸着剤の開発) 主査:教授 田中 俊逸
	エムディ シャリフル MD. SHARIFUL イスラーム ISLAM	Phytofiltration of arsenic and cadmium from the water environment using <i>Micranthemum umbrosum</i> ( <i>Micranthemum umbrosum</i> を用いた水圏環境よりのヒ素及びカドミウムの浄化) 主査:教授 田中 俊逸
	オレンシオ ペドクリス Orencio Pedcris ミラレス Miralles	Developing and applying composite indicators for assessing and characterizing vulnerability and resilience of coastal communities to environmental and social change (環境・社会変化に対する沿岸地域社会の脆弱性と回復力の統合評価指標の開発と適用) 主査:准教授 藤井 賢彦
	バク 朴 ユウ ヒロン 惟 賢	Study of archaeal and bacterial lipids in surface sediments from the western Arctic Ocean and the Bering Sea and their application to paleoenvironmental reconstruction (西部北極海とベーリング海の表層堆積物に含まれるアーキアおよびバクテリア起源脂質の研究とその古環境学的応用) 主査:准教授 山本 正伸
	かしわ せ はる ひこ 柏 瀬 陽 彦	Effect of ice-ocean albedo feedback on summer retreat of Arctic sea ice cover (北極海の海水融解期における海水-海洋アルベドフィードバック効果) 主査:教授 大島 慶一郎
	リョウ 梁 モ 茂 カン 厂	Controlling factors on larch growth in taiga-tundra boundary ecosystem in northeastern Siberia (北東シベリアタイガーツンドラ境界生態系のカラマツの成長量規定因子に関する研究) 主査:教授 杉本 敦子
	スン モヌ SUNMONU アジザフ イドゥ AZIZAT IDOWU	Carbon allocation strategies for reproduction and growth in spring ephemeral plants (春植物における繁殖と成長への炭素分配戦略) 主査:准教授 工藤 岳
博士 (理学)	つじ え しゅう へい 辻 栄 周 平	Construction of canonical systems of basic invariants for finite reflection groups (有限鏡映群の標準不変式系の構成) 主査:教授 岩崎 克則
	や の あつ し 矢 野 充 志	Differential systems associated with partial differential equations of one and more unknown functions (一未知及び多未知関数の偏微分方程式に付随した微分式系について) 主査:教授 石川 剛郎
	アブダラー サブリ Abdallah Sabry アブドマフソン Abdelmohsen モハメド Mohammed	A three-dimensional Resistivity Structure Study Using Airborne Electromagnetics: Application to GREATM Field Survey Data (空中電磁法による3次元比抵抗構造の研究: GREATM探査データへの応用) 主査:教授 茂木 透



博士（農学）	ひら さわ かず あき 平 澤 一 暁	ロータリ耕うんの動的現象の解析研究 主査：准教授 片岡 崇
	ジャンジラ マニーサン Janjira Maneesan	Reaction mechanism of glycosidases by studying 1,5-anhydro-D-fructose production (1,5-アンヒドロ-D-フラクトース生成によるグリコシダーゼの反応機構の究明) 主査：教授 木村 淳夫
	ウ ヲ ラ ワ ラ ン WORRAWALAN フ ィ ン サ ワ ヲ ヲ ト PHOONSAWAT	Adiponectin is partially associated with exosomes in mouse serum (マウスの血清においてアディポネクチンの一部はエキソソームに存在する) 主査：教授 川端 潤
	カ イ ス エ イ KHINE SWE ニ ユ ン NYUNT	Isolation of antitrypanosomal compounds from Myanmar medicinal plants (ミャンマー薬用植物からの抗トリパノソーマ剤の探索) 主査：准教授 松浦 英幸
	パ ン チ タ PANCHITA フ ヲ ワ モ ン コ ン PHUWAMONG- ウ イ ワ ヲ ヲ ト KOLWIWAT	Promotion of anti-diabetic effects of flavonoid glycosides by nondigestible saccharides (難消化性糖質によるフラボノイド配糖体の抗糖尿病作用を高める研究) 主査：教授 原 博
	リ 李 ジャ 慈 ヨ ン 英	Cholic acid administration modulates intestinal microbiota composition and parameters for metabolic diseases in rats (コール酸の摂取はラット腸内細菌叢の組成および代謝性疾患のパラメーターを変化させる) 主査：教授 横田 篤
	い し や ま の お お 石 山 信 雄	Influences of wetland network structure on species and genetic diversity of freshwater fish in agricultural landscape (農地景観における湿地ネットワークの構造が魚類の種および遺伝的多様性に与える影響) 主査：教授 中村 太士
	す え よ し ま さ な お 末 吉 正 尚	The Interaction between agricultural land use and flood disturbance on aquatic insects- Approaches from community and population dynamics and genetic structure - (農地利用と洪水攪乱が水生昆虫に及ぼす相互作用効果 - 群集・個体群動態及び遺伝的構造からのアプローチ) 主査：教授 中村 太士
	フ ァ ム ビ エ ヲ ヲ ト PHAM VIET ス ン DUNG	Influence of phosphate sorption on dispersion of a Ferralsol (リン酸取着がフェラルソルの分散に及ぼす影響) 主査：教授 石黒 宗秀
	リー 李 リー 莉	Studies on physiological characteristics of <i>Pseudomonas</i> denitrifiers isolated from post-harvest soil of dent corn Andisol farmland, and regulative approach of those nitrous oxide (N <sub>2</sub> O) emitters relevant to active N <sub>2</sub> O efflux from the soil (収穫後デントコーン畑地黒ボク土壌から分離した <i>Pseudomonas</i> 属脱窒細菌群の生理学的特徴と、その土壌の高い亜酸化窒素 (N <sub>2</sub> O) 放出を担うN <sub>2</sub> O生成細菌群の制御に関する研究) 主査：教授 波多野 隆介
ワン 王 チュン 春 イン 穎	Using SWAT model to predict water flow, sediment and nutrients loads in Shibetsu river watershed, eastern Hokkaido, Japan (SWATモデルによる北海道東部の標津川流域における水、土砂、養分流出予測) 主査：教授 波多野 隆介	
博士（生命科学）	ザオ 趙 ユウ 昱	Create Tough Hydrogels Using Biopolymer (生体高分子を含有する強靱ゲルの創成) 主査：教授 龔 劍萍
	しの だ あきら 篠 田 晃	インクジェットと親水性ゲルを用いた結晶固定法の開発 - リガンドスクリーニングの自動化へ向けた取り組み - 主査：教授 姚 関
	ジャミル アハメッド Jamil AHMED	Study on frictional properties of zwitterionic hydrogels (両性イオン性ゲルの表面摩擦に関する研究) 主査：教授 龔 劍萍
	すず き たて き 鈴 木 干 城	Structural insight into tRNA channeling on bacterial Asn-transamidosome (真正細菌型Asn-トランスアミドソームにおけるtRNAチャネリング機構の構造基盤) 主査：教授 姚 関

博士 (生命科学)	はな だ ゆう いち 花 田 祐 一	Study on the structure and function of $\beta$ -helical antifreeze proteins from cold-adapted microorganisms (微生物由来不凍タンパク質の構造と機能に関する研究) 主査：客員准教授 近藤 英昌
	ラジェッシュクマール Rajesh Kumar シャルマ SHARMA	Investigation on the Effect of Flow Field on the Amyloid Fibril Formation (アミロイド線維形成に及ぼす流動場の効果に関する研究) 主査：特任教授 佐々木 直樹
	やす だ しげ たか 安 田 盛 貴	Studies on the phosphorylation of Arabidopsis ubiquitin ligase ATL31 in nutrient response (栄養応答におけるシロイヌナズナユビキチンリガーゼATL31のリン酸化に関する研究) 主査：教授 山口 淳二
博士 (薬科学)	じ ぬし たか ぬみ 地 主 隆 文	マイクロRNA-124-5pの大腸癌における生存率との関係および機能解析 主査：教授 井関 健
	マハムダ ナルギス Mahmuda Nargis	Development of an innovative drug delivery system targeted to adipose vessel utilizing novel nucleic acid aptamer for control of obesity (新規核酸アプタマーを用いた脂肪血管標的化ナノ送達システムの開発) 主査：教授 原島 秀吉
	まる やま ひで と 丸 山 豪 斗	化学反応を利用した機能的核酸の細胞内ビルドアップ法の開発 主査：准教授 阿部 洋
博士 (教育学)	かわ まえ 川 前 あゆみ	教員養成段階における往還型へき地教育プログラムの研究 主査：特任教授 木村 純
博士 (国際広報メディア)	よこ た つとむ 横 田 勉	行刑施設とそれが置かれる地域との関係性－北海道での取り組みを例として－ 主査：准教授 堀田 真紀子
博士 (観光学)	ジャン ギョン セ 張 慶 在	観光空間の構造とオーセンティシティに関する研究～多層的「ネットワーク」空間とオーセンティケーション概念を中心に～ 主査：教授 山田 義裕
博士 (工学)	おお や あき み 大 矢 麻 美	鉄鋼排熱利用型熱発電システムの可能性調査 主査：教授 秋山 友宏
	ギョウ 牛 ショウ 晶	Combustion Synthesis of SiAlON Powders (サイアロン粉末の燃焼合成) 主査：教授 秋山 友宏
	ジャン シャン グアン 張 猷 光	Research on abnormal grain growth in reversely transformed austenite structure (逆変態オーステナイトの異常粒成長に関する研究) 主査：教授 松浦 清隆
	チェン シイ ウエイ 陳 思 維	Helium Effect on Irradiation Hardening and Anneal Hardening in Iron and its Alloys (鉄及びその合金における照射硬化及びアニール硬化に対するヘリウムの影響) 主査：特任教授 大貫 惣明
	にし だめ ち あき 西 留 千 晶	特性変動を有する動的システムのモデル化と制御 主査：教授 梶原 逸朗
	フェブリル フダ Febliil Huda	Structural Health Monitoring by Vibration Measurement with Non-contact Laser Excitation (非接触レーザー加振を用いた振動計測に基づく構造ヘルスマニタリング) 主査：教授 梶原 逸朗
	うえ だ りょう すけ 上 田 亮 介	ヘリオトロンプラズマにおける抵抗性交換型不安定性と磁気島との相互作用に関する研究 主査：特任教授 板垣 正文
	ジャン ユアン 張 媛	Deformation-strength Characteristics of Unsaturated Granular Subbase Course Material under Monotonic and Cyclic Loading (単調および繰返し载荷を受ける不飽和粒状路盤材の変形－強度特性に関する研究) 主査：教授 石川 達也
	いの こ けいの すけ 猪 子 敬之介	不整形地盤におけるRC池状構造物間の地震時非線形挙動に関する研究 主査：特任教授 林川 俊郎
	ロング ボリス Long Borith	Structure Analysis of Latent Psychological Factors of Transportation Behaviour (交通挙動の潜在的な心理要因に関する構造分析) 主査：特任教授 中辻 隆
まつ もら まこと 松茂良 諒	断面解析モデルを用いたアンボンドPCaPC梁部材の構造特性評価に関する研究 主査：教授 菊地 優	

博士 (工学)	リウ 劉 ホン 洪 ジー 芝	Study on Open and Closed Chemical Thermal Energy Storage Technology with Low-regeneration Temperature (開放式と密閉系の低温化学蓄熱に関する研究) 主査:教授 長野 克則
	アルマ ラ ヒ ジ ユ マ ナ Al-Mallahi Jumana アリファラー Ali Falah	Proper Treatment and Energy Recovery through Codigestion of Two Phase Olive Mill Waste (オリーブオイル残渣の混合メタン発酵による 適正処理とエネルギー回収に関する研究) 主査:特任教授 古市 徹
	ディラベ DERABE- マ オ ベ イ ナ MAOBE HINA	High rate algal pond for greywater treatment in arid and semi-arid areas (乾燥地域及び半乾燥地域における高速藻類池の研究) 主査:教授 高橋 正宏
	ピタクティエーラタム Pitakteeratham ニティ Niti	Phosphate removal from water using zirconium-based mesoporous materials (ジルコニウム系メソポーラス物質を用いた水からのリン酸塩除去) 主査:准教授 佐藤 久
	アラム エーケーエム Alam A.K.M. バドワラル Badrul	Temperature and confining pressure effects on the permeability of rocks under triaxial compression (三軸圧縮下における岩石の浸透率に対する温度と封圧の影響) 主査:教授 藤井 義明
	キム 金 ハク 学 マン 晩	Control of dynamic fracturing in concrete pile head breakage by blasting (発破による杭頭処理における動的破壊の制御) 主査:教授 川崎 了
	シュ 朱 チュン 情 チュン 情	Enhanced oxidation of brominated phenols using iron(III)-porphyrin catalysts immobilized on functionalized supports (機能化された担体への鉄(III)-ポルフィリン触媒の担持による臭素化フェノール類の促進酸化に関する研究) 主査:准教授 福嶋 正巳
博士 (理学)	あさ 朝 くら 倉 とし 敏 かげ 景	Studies on Photoacid Generators for the Next-generation Photolithography (次世代フォトリソグラフィーのための光酸発生剤の研究) 主査:教授 佐田 和己
	ガネサン エルマライ Ganesan Elumalai	Studies on Electrocatalytic Activities of Boron Nitride of Various Structures towards Oxygen Reduction Reaction and Hydrogen Evolution Reaction (種々の構造をもつ窒化ホウ素の酸素還元反応および水素生成反応に対する電極触媒活性に関する研究) 主査:教授 村越 敬
	おお 大 はら 原 ひろ 裕 き 樹	Studies on Highly Luminescent Mononuclear Copper(I)-Halide Complexes with N-heteroaromatic ligands (N-ヘテロ芳香族配位子を有する強発光性ハロゲン化銅(I)単核錯体に関する研究) 主査:教授 喜多村 昇
	すず 鈴 き 木 ゆう 悠 き 記	Total Synthesis of Pectenotoxin-2 and Synthetic Studies on its Stable Analogue (ペクテノトキシン2の全合成とその安定化アナログの合成研究) 主査:教授 谷野 圭持
	チャン 張 スー 四 チャン 成	Development of Synthetic Methods for Two-Dimensional Acenes from Acenes (アセンを出発物質とした二次元アセンの合成法開発) 主査:教授 鈴木 孝紀
	ホセ イサガニ Jose Isagani ベレン ハナイロ Belen Janairo	Formation and Catalytic Activity of Palladium Nanostructure Through the Spatially Oriented Biomineralization Peptide (立体配向制御バイオミネラリゼーションペプチドを介したパラジウムナノ構造体の形成と触媒活性) 主査:教授 村上 洋太
	フェン 馮 ハイ 海	High-Pressure Synthesis of Osmium Oxides with Double-Perovskite Structure and Their Magnetic Properties (2重ペロブスカイト型オスミウム酸化物の高圧合成と磁気的性質) 主査:教授 日夏 幸雄



博士（工学）	さか い なお や 酒 井 直 哉	Synthesis and Solution Property of Water-Soluble Polyisocyanate as Rod-Like Materials (水溶性ロッド型ポリイソシアナートの合成と溶液物性に関する研究) 主査：教授 佐藤 敏文
--------	----------------------	--

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（医学）	と だ ひろ ゆき 戸 田 裕 之	母子分離ストレスの恐怖条件付け記憶増強の分子メカニズムに関する研究 主査：教授 久住 一郎
	ひし たに たかし 菱 谷 隆	胎児超音波遠隔診断を用いた医療連携 主査：教授 有賀 正
	わ だ たけ し 和 田 剛 志	生体侵襲下臓器障害と血管新生関連因子の連関の研究 主査：教授 森本 裕二
博士（獣医学）	き ど のぶ ひで 木 戸 伸 英	ヒゼンダニ ( <i>Sarcoptes scabiei</i> ) に感染した野生ホンダタスキ ( <i>Nyctereutes procyonoides</i> ) の疫学調査、血清生化学的性状および治療法に関する研究 主査：教授 坪田 敏男
博士（情報科学）	み かみ つよし 三 上 剛	Analysis of Upper Airway MRIs and Snoring Sounds for Automatic Classification of Obstructive Sleep Apnea Syndrome (閉塞型睡眠時無呼吸症候群の自動識別を目的とした上気道MR画像といびき音の解析) 主査：教授 山本 雅人
博士（水産科学）	たか はし ひで ゆき 高 橋 秀 行	小型底曳網漁業の労働実態の把握と改善に関する研究 主査：教授 藤森 康澄
博士（環境科学）	ユ ス テ ィ ア リ テ ィ YUSTIAWATI シ ャ ワ ル SYAWAL	Effect of peat fire on chemical characteristics of humic acid and fulvic acid in soil and water of peatland of Central Kalimantan, Indonesia (インドネシア中央カリマンタン泥炭地の土壌及び水中のフミン酸とフルボ酸の化学的特性への泥炭火災の影響) 主査：教授 田中 俊逸
	あし おか たく 味 岡 拓	Distribution of glycerol dialkyl glycerol tetraethers in Lake Biwa basin and the reconstruction of lake water pH during the last 300,000 years (琵琶湖集水域系におけるGDGTの分布と過去30万年間の湖水pHの復元) 主査：准教授 山本 正伸
	た なか つね き 田 中 常 喜	Use of genetic diversity on DNA markers to increase forage yield in timothy ( <i>Phleum pratense</i> L.) (チモシーにおける収量性改良のためのDNA多型の利用) 主査：教授 山田 敏彦
博士（生命科学）	お の たか し 小 野 貴 士	Hsp47タンパク質のコラーゲン認識機構に関する研究 主査：特任教授 有賀 寛芳
博士（教育学）	オウ 王 エイ 穎	中国における高校教員の労働実態及びストレスとその対策に関する研究 主査：教授 水野 眞佐夫
博士（工学）	あさひ かず たけ 旭 一 岳	河岸侵食と河道の陸地化を考慮した河道形状追跡モデルの開発研究 主査：教授 清水 康行
	あ べ たか あさ 阿 部 孝 章	寒冷地域の河口域における津波災害とその影響評価手法に関する研究 主査：教授 清水 康行
博士（理学）	ささ き てつ や 笹 木 哲 也	魚醬油の重金属除去および機能性ペプチドの特定と新規機能性食品素材への応用 主査：教授 喜多村 昇

## ■レクリエーション

### 教職員サッカークラブが 平成26年度 第44回札幌社会人サッカーリーグに出場

4月27日（日）～9月14日（日）の日程で平成26年度 第44回札幌社会人サッカーリーグに出場しました。

最上位のSリーグから新規加入チームによるライラックリーグまで、全13部・118チームで構成されるリーグ戦で、教職員サッカークラブはBリーグ5部に所属し、5勝2敗2分の4位で全日程を終えました。対戦成績は以下のとおりです。

(教職員サッカークラブ)

---

4月27日	教職員サッカークラブ	1 - 0	北海学園ミドルクラブ
5月18日	教職員サッカークラブ	0 - 0	NetWork+
6月8日	教職員サッカークラブ	2 - 5	大将
6月22日	教職員サッカークラブ	3 - 1	北ガス FC
7月6日	教職員サッカークラブ	4 - 1	FC XEROX
8月3日	教職員サッカークラブ	2 - 0	Zealous札幌
8月10日	教職員サッカークラブ	2 - 2	AFCアヤックス
8月24日	教職員サッカークラブ	0 - 4	FC Dimerente 1987
9月14日	教職員サッカークラブ	2 - 0	Machu Picchu Fc



平成26年度 第44回札幌社会人サッカーリーグ

# 平成26年度学内教職員フットサル大会の開催

9月1日（月）から9月12日（金）にかけて学内教職員フットサル大会を第2体育館にて開催しました。学内より18チームが参加し、連日熱戦が繰り広げられました。

決勝戦では、PK戦の末、北キャンパス町内会が勝利し、初めての優勝を飾っています。対戦結果は以下のとおりです。

(教職員サッカークラブ)



優勝決定のシーン



優勝チーム 北キャンパス町内会



# 教職員卓球大会の開催 一団体戦・ペア・個人戦一

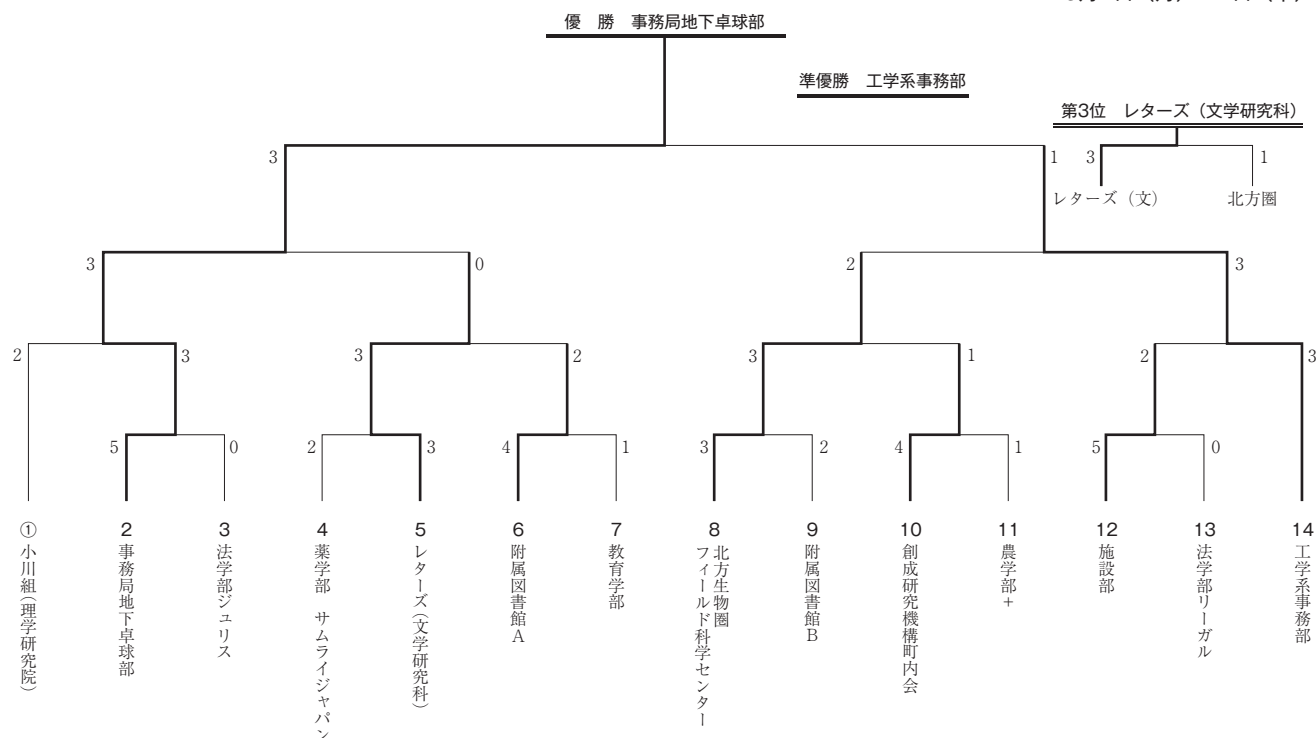
9月1日（月）から9月10日（水）にかけて、学内教職員卓球大会を小体育館で開催しました。

団体戦に14チーム129名、ペア3クラスに21ペア、個人戦2クラスに14名が参加し、声援のなか熱戦が繰り広げられました。なお、対戦結果は以下のとおりです。

（職員卓球部）

## 平成26年度 教職員卓球大会（団体戦）

9月1日（月）～4日（木）



## 個人戦：9月5日（金）～9日（火）

クラス	優勝	準優勝	第3位	第4位
一般A	久保 大輔（主計）	西野 浩史（電子研）	沖田 正彦（人事）	小林 広和（触媒）
一般B	谷口 雄郎（資産運用）	松川 朋実（施設整備）	高橋 英嗣（人事）	

## ペア：9月9日（火）～10日（水）

クラス	優勝	準優勝	第3位	第4位
フリー	竹田・對木（法）	塚越・佐藤（文&外部資金戦略）	板井・押田（環境配慮促進）	山岸・柿崎（主計）
ビギナー	林・田島（学生支援&学務企画）	京谷・細越（獣医）	山内・長谷川（法）	新井・渡部（学生支援）
超ビギナー	滝井・近藤（教育推進）	喜多・渡部（獣医）	坂本・菅原（獣医）	



団体戦優勝 事務局地下卓球部



ビギナーペア優勝 「林・田島ペア」

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成26年 9月10日）

- 議案・COI STREAM 拠点事業への再申請について
- ・若手教員の増加策（教員の若返り策）等について
- 協議事項・ティーチング・フェロー制度の導入について
- ・探索医療教育研究センターの廃止について
  - ・共同プロジェクト拠点の概要について
  - ・正規教員に対する年俸制の導入について
  - ・ディスティングイッシュトプロフェッサー制度及びユニバーシティプロフェッサー制度の導入について
  - ・包括契約について
  - ・諸規則の一部改正について
  - ・就業規則関連規程の一部改正について
- 報告事項・北海道大学緑のピアガーデン2014の実施報告について
- ・平成26年度オープンキャンパス及び北海道大学進学相談会（東京会場）開催結果について
  - ・教育関係共同利用拠点の審査結果について
  - ・遺伝子病制御研究所の分野名称変更について
  - ・平成26年人事院給与勧告について
  - ・障害者の雇用状況等について
  - ・平成27年度概算要求について
  - ・平成26年度運営費交付金の追加配分について
  - ・平成26年度部局評価に基づく資源の再配分事業について
  - ・学校教育法及び国立大学法人法等の改正について
- 

### 教育研究評議会（平成26年 9月17日）

- 議題・研究費の不正使用に係る教員の懲戒審査について
- ・経営協議会の学外委員について
  - ・ティーチング・フェロー制度の導入について
  - ・探索医療教育研究センターの廃止について
  - ・共同プロジェクト拠点の概要について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・北海道大学緑のピアガーデン2014の実施報告について
- ・サステナビリティ・ウィーク2014への協力依頼について
  - ・遺伝子病制御研究所の分野名称変更について
  - ・寄附分野の延長について
  - ・平成27年度概算要求について
- 

### 役員会（平成26年 9月26日）

- 議案・ティーチング・フェロー制度の導入について
- ・共同プロジェクト拠点の概要について
  - ・就業規則関連規程の一部改正について
  - ・平成26年度中期目標達成強化経費第三次決定事業について
- 報告事項・環境報告書2014について
- ・東日本大震災で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について
- 

### 経営協議会（平成26年 9月29日）

- 議題・正規教員に対する年俸制の導入について
- ・ディスティングイッシュトプロフェッサー制度の導入について
  - ・規程の改正について
- 報告事項・大型プロジェクトの進捗状況等の報告について
- ・平成27年度概算要求について
- その他・平成26年人事院給与勧告について
- ・環境報告書2014について
-

**役員会**（平成26年9月30日）

議案・探索医療教育研究センターの廃止について  
 ・諸規則の一部改正について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

**学内規程****北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程**

（平成26年9月10日海大達第178号）

国際化の推進に向けた学事歴の見直しによる4学期制の導入に対応するため、国際交流科目に1単位で開講可能な科目を新設することに伴い、所要の改正を行うものです。

**国立大学法人北海道大学船員就業規則の一部を改正する規則**

（平成26年9月30日海大達第179号）

水産学部附属練習船おしよろ丸代船の建造に伴い、所要の改正を行うものです。

**国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則**

（平成26年10月1日海大達第180号）

平成26年10月1日付けで、本学の学内共同教育研究施設等である探索医療教育研究センターの機能を、北海道大学病院に統合することに伴い、所要の改正を行うものです。

**国立大学法人北海道大学創成研究機構規程等の一部を改正する規程**

（平成26年10月1日海大達第181号）

平成26年10月1日付けで、学内共同教育研究施設等である探索医療教育研究センターを廃止することに伴い、所要の改正を行うものです。

**国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則**

（平成26年10月1日海大達第182号）

林業技能補佐業務に従事する職員（6月以上の契約期間を有する職員又は6月以上継続して勤務している職員に限る。）に付与する有給の特別休暇として、傷病休暇を新設することに伴い、所要の改正を行うものです。

**国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程**

（平成26年10月1日海大達第183号）

大学の教員等の任期に関する法律（平成9年法律第82号。以下「任期法」という。）が改正され、労働契約法の特例が定められたことを踏まえ、任期法第4条第1項第1号又は同項第2号に基づき任期を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行うものです。

**北海道大学病院規程の一部を改正する規程**

（平成26年10月1日海大達第184号）

北海道大学病院高度先進医療支援センターを臨床研究開発センターに改組することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行うものです。

**北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程**

（平成26年10月1日海大達第185号）

平成26年10月1日付けで、遺伝子病制御研究所の疾患制御研究部門に置く分野の名称を改めることに伴い、所要の改正を行うものです。



## ■ 研修

### 平成26年度国立大学法人北海道大学会計実務研修

開催期間：平成26年10月1日～平成26年10月3日

開催場所：大滝セミナーハウス

研修目的：会計事務に従事する職員に、実務に必要な本学の会計制度及び会計業務実施基準等に関する基本的知識を付与することを目的とする。



集合写真



研修の様子（大学予算の概要）



班別討議



班別討議発表

（財務部主計課）

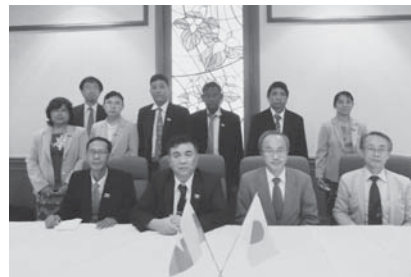
## ■ 表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
26.9.16	フィンランドセンター Merja Karppinen 所長	就任挨拶
26.9.24	パテイン大学（ミャンマー）Nyunt Phay 学長	両大学の交流に関する懇談



フィンランドセンター  
Merja Karppinen 所長（前列右）



パテイン大学（ミャンマー）  
Nyunt Phay 学長（前列左から2人目）

（国際本部国際連携課）

# ■人事

平成26年9月10日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 北海道大学病院看護部看護師	杉 原 美 樹	北海道大学病院看護部助産師

平成26年9月13日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 (辞職)	蘇 義 淵	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター准教授

平成26年9月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (辞職)	張 千 帆	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授

平成26年9月20日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	山 本 真 理	大学院メディア・コミュニケーション研究院助教

平成26年9月25日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授	金 ソンミン	採用

平成26年9月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 (任期満了) (辞職)	橋 本 茂 出 山 義 昭	大学院医学研究科准教授 大学院歯学研究科准教授
【助教】 (任期満了) (辞職)	高 橋 亮 山 吹 匠 中 垣 整 藤 原 正 澄	北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 電子科学研究所助教
【学術専門職】 (辞職)	内 田 治 子	国際本部学術専門職
【主任】 (辞職)	堅 田 義 昭	学務部キャリアセンター主任
【係員】 (辞職)	小 川 雅 史	医学系事務部総務課

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	杉 原 美 樹	北海道大学病院看護部看護師
【特任教授(再雇用)】 (辞職)	中 辻 隆	大学院工学研究院特任教授
【特任准教授(再雇用)】 (辞職)	佐 藤 直 樹	北海道大学病院特任准教授
【特任助教(再雇用)】 (辞職)	佐 藤 隆 文 木 村 修	大学院歯学研究科特任助教 水産学部附属練習船おしよろ丸特任助教
【嘱託職員】 (辞職)	有 倉 清 美	北方生物圏フィールド科学センター

平成26年10月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成28年9月30日まで)	大 内 全	北海道経済連合会会長
【部局長・施設長等】 社会科学実験研究センター長 (期間：平成28年9月30日まで)	結 城 雅 樹	大学院文学研究科教授
【教授】 大学院法学研究科教授 大学院医学研究科教授 北海道大学病院教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 (転出) 東京大学大学院人文社会系研究科教授	桑 原 朝 子 篠 原 信 雄 杉 田 修 仙 石 学 亀 田 達 也	大学院法学研究科准教授 大学院医学研究科准教授 探索医療教育研究センター教授 採用 大学院文学研究科教授
【准教授】 大学院医学研究科准教授 大学院医学研究科准教授, 国際連携研究教育局准教授 大学院情報科学研究科准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院教育学研究院准教授 大学院教育学研究院准教授 大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター准教授 大学院工学研究院准教授 大学院公共政策学連携研究部准教授 北海道大学病院准教授 国際本部留学生センター准教授 国際本部留学生センター准教授	古 川 洋 志 清 水 伸 一 瀧 川 一 学 小 林 厚 志 保 田 諭 阿 部 匡 樹 鳥 山 まどか 姫 野 完 治 中 島 一 紀 伊 藤 一 頼 稲 毛 富 士 郎 伊 藤 孝 行 山 田 悦 子	大学院医学研究科講師 採用 採用 大学院理学研究院講師 大学院理学研究院講師 採用 大学院教育学研究院助教 秋田大学教育文化学部准教授 東北大学大学院工学研究科助教 採用 探索医療教育研究センター准教授 採用 採用
【講師】 大学院医学研究科講師 大学院医学研究科講師 大学院医学研究科講師 北海道大学病院講師	及 川 司 小野寺 康 仁 津 田 真寿美 舟 山 恵 美 田 中 佐 織	採用 大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 北海道大学病院助教



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<p><b>【助教】</b>            大学院法学研究科助教            大学院情報科学研究科助教            大学院理学研究院助教            大学院理学研究院助教            大学院薬学研究院助教            大学院保健科学研究院助教            大学院工学研究院助教            北海道大学病院助教            遺伝子病制御研究所助教            (転出)            京都大学大学院工学研究科助教</p>	<p>丁 文 杰            福 地 厚            岩 佐 豪            齋 尾 智 英            天 野 大 樹            俵 紀 行            田 中 真 悟            夏井坂 光 輝            平 田 德 幸            岡 本 亮</p>	<p>採用            採用            採用            採用            採用            採用            採用            採用            採用            採用            遺伝子病制御研究所            電子科学研究所助教</p>
<p><b>【学術専門職】</b>            国際本部学術専門職            国際本部学術専門職</p>	<p>石 倉 香 理            田 村 早 紀</p>	<p>採用            採用</p>
<p><b>【補佐】</b>            財務部調達課課長補佐</p>	<p>佐々木 好 美</p>	<p>研究推進部研究振興企画課専門員</p>
<p><b>【係長】</b>            函館キャンパス事務部係長            北海道大学病院経営企画課係長            情報環境推進本部情報推進課係長            (出向復帰)            学務部学務企画課係長            研究推進部研究振興企画課係長            施設部施設整備課付係長            北海道大学病院医事課係長            (出向)            国立青少年教育振興機構国立日高青少年自然の家管理係長</p>	<p>安 達 孝 徳            村 岡 健一郎            富 西 哲 史            渡 邊 秀 雄            渡 辺 国 宏            渡 辺 栄 伸            佐々木 靖 子            西 徹</p>	<p>学務部学務企画課主任            北海道大学病院医事課係長            北海道大学病院経営企画課係長            室蘭工業大学教務グループユニットリーダー            国立青少年教育振興機構国立日高青少年自然の家管理係長            国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課施設係長            旭川医科大学病院事務部医療支援課入院係長            学務部学生支援課主任</p>
<p><b>【主任】</b>            学務部学務企画課主任            文学研究科・文学部主任            法学研究科・法学部主任            法学研究科・法学部主任            函館キャンパス事務部主任            理学・生命科学事務部事務課主任            工学系事務部総務課主任            国際本部国際連携課付主任            北キャンパス合同事務部主任</p>	<p>山 内 大 造            小 関 弘 悦            小 林 詩 子            渡 邊 武 彦            松 原 洋 一            高 口 幸 恵            長谷川 修 平            石 原 壮太郎            熊 谷 典 子</p>	<p>法学研究科・法学部主任            理学・生命科学事務部事務課主任            低温科学研究所            工学系事務部総務課主任            函館キャンパス事務部係長            総務企画部広報課主任            学務部学務企画課主任            北海道大学病院管理課主任            財務部主計課主任</p>
<p><b>【係員】</b>            監査室            総務企画部人事課            財務部主計課            財務部調達課            学務部学務企画課            学務部学生支援課            学務部キャリアセンター            法学研究科・法学部            法学研究科・法学部            医学系事務部総務課            理学・生命科学事務部事務課            理学・生命科学事務部事務課</p>	<p>清 野 友香理            上 坂 忠 幸            本 間 真樹子            林 由加里            三 浦 千 穂            菊 地 修 平            佐々木 香 苗            澁 谷 はる香            山 本 翔 平            清 水 亮 博            大 橋 千 怜            横 川 由 希</p>	<p>理学・生命科学事務部事務課            採用            工学系事務部情報科学研究科事務課            採用            法学研究科・法学部            北方生物圏フィールド科学センター            学務部学生支援課            採用            採用            工学系事務部総務課            総務企画部総務課            採用</p>

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
メディア・観光学事務部	高 嶋 和 希	理学・生命科学事務部事務課
工学系事務部総務課	岡 坂 直 寛	文学研究科・文学部
工学系事務部教務課	木 下 真 純	農学事務部
工学系事務部情報科学研究科事務課	岸 上 春 菜	採用
工学系事務部情報科学研究科事務課	土 谷 孝 文	採用
北海道大学病院管理課	林 宏 樹	北海道大学病院医事課
北海道大学病院医事課	岡 田 健太郎	採用
北方生物圏フィールド科学センター	岡 部 啓 吾	北キャンパス合同事務部
国際本部国際連携課	小 澤 響 子	工学系事務部教務課
国際本部国際連携課付	高 木 敦 子	国際本部国際教務課
国際本部国際教務課	五十嵐 里 奈	採用
北キャンパス合同事務部	豊 村 桃	採用
<b>【技術職員等】</b>		
大学院工学研究院	大 熊 達 也	採用
大学院工学研究院	西 田 浩 平	採用
大学院工学研究院	山ノ内 友里香	採用
北海道大学病院看護部看護師	赤 塚 里 絵	採用
遺伝子病制御研究所	石 垣 聡 子	採用

新任教授紹介

平成26年10月1日付



法学研究科教授に

くわはら あさこ  
**桑原 朝子 氏**

法学政治学専攻基礎法講座

生年月日

昭和49年 7月16日

最終学歴

東京大学法学部卒業 (平成 9年 3月)  
博士 (法学) (東京大学)

専門分野

日本法制史



医学研究科教授に

しのほら のぶお  
**篠原 信雄 氏**

医学専攻外科学講座  
腎泌尿器外科学分野

生年月日

昭和33年11月24日

最終学歴

北海道大学医学部医学科 (昭和59年 3月)  
博士 (医学) (北海道大学)

専門分野

泌尿器科腫瘍学



スラブ・ユーラシア研究センター  
教授に

せんごく まなぶ  
**仙石 学 氏**

東欧部門

生年月日

昭和39年 8月18日

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位修得退学 (平成 6年 3月)  
学術修士 (東京大学)

専門分野

比較政治学

## 編集メモ

---

●秋も深まり、木々の彩りが美しい季節となりました。本学のイチョウ並木も黄金色に輝き、多くの皆様にお越しいただいています。

●9月27日（土）に行われたホームカミングデーには、多くの同窓生や在学生、そのご家族の皆様にご参加いただき、感謝申し上げます。本学へのまたのお越しを心よりお待ちしております。







2013.10.26 函館本線 ニセコ～比羅夫（ニセコ町・倶知安町）

## 北の鉄道風景 19 黄葉の溪谷

後志の名流大河である尻別川は、伊達市大滝区、千歳市及び札幌市南区の境界に位置する山間部を源とし、数多の支流を合わせながら、羊蹄山麓の北側から西側を回り込むように流れ、蘭越町の港地区で日本海へ注ぐ。尻別川が羊蹄山麓の西側に刻んだ溪谷に沿って、函館本線のニセコ～倶知安間の線路が敷設されており、この区間には、ニセコ側から順番に尻別川第二橋梁・第三橋梁・尻別川橋梁の三つの

鉄橋がある。写真は尻別川第二橋梁を渡る「SLニセコ号」である。JR北海道は、今年度限りで同列車を廃止する方針を示している。黄葉真っ盛りの溪谷を、汽車が白煙をたなびかせながら走るという、郷愁あふれる情景は、残念ながら今秋で見納めとなる。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑩ No.727 平成26年10月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html